



千葉大学医学部同窓会報 第172号 題字 故鈴木五郎 (大11卒 元みの は な 同窓会長)

編集発行者 千葉大学医学部 みの は な 同窓会報編集部 〒260-8670 千葉市中央区亥鼻1-8-1 千葉大学医学部内 みの は な 同窓会 電話 (043) 202-3750 FAX (043) 202-3753 e-mail : info@inohana.jp HP : http://www.inohana.jp/



「みの は な 同窓会総会」開催のお知らせ

平成28年度みの は な 同窓会総会を左記により開催いたします。

1. 日時 平成28年6月11日(土) 午後3時20分より
2. 場所 千葉大学医学部附属病院 ガーネットホール (外来診療棟3階大講堂)
3. 議事等 (1) 名誉会員の推薦について (2) 年次活動について(報告事項)

シンポジウム
テーマ 押し寄せる高齢化、ジェネラリスト活用で突破口を見いだす！新専門医制度も踏まえて、千葉大学医学部附属病院長 山本 修一
「2020年千葉は総合診療の先端へ」
東京ベイ・浦安市川医療センター救急部長 志賀 隆
「ER型救急という挑戦 医師不足対策の切り札になるか」
日本医師会常任理事 石川 広己
「日本医師会等におけるかかりつけ医推進の取組」

懇親会 午後6時より
於：千葉大学医学部附属病院 フォレスト (にし棟3階)
会費 一万円
学生会員・平成14年以降卒業の会員は無料
(当日受付にて申し受けます)
個人情報保護のために同封のシールを貼り、返信用葉書にて出欠の返事をお送りください。
なお、ご返事のない場合は、総会の議決を議長にご一任頂いたものとさせていただきます。(6月3日必着)
千葉県のみの は な 総会は同日同所にて午後3時より開催します。

平成27年度千葉大学医学部卒業証書伝達式・祝辞

3月23日(水) 於 記念講堂 済陽 高穂 (昭45)



本日は皆さん、卒業おめでとうございます。

大学の教育課程をすべて修了し、また長かった小学校入学以来の教育期間の終了を迎え、安堵の念を抱い

ていることと思います。しかしそれ以上に諸君のご家族にとっては、待ちかねた日であり、また医学部教授陣をはじめ指導教官にも嬉しい一時であり、諸君一人一人の満足にも増してご家族や教育指導陣の諸先輩方の喜びも一入で、永年ご子弟に注がれた親族としての愛情や、後輩へのご薫陶に對し、心より感謝致す次第です。

諸君がいの は な 台で学び、学園クラブ活動の一環として、青春の友情を育んだ日々は、何物にも代えがたい珠玉の宝物として、生涯皆さんの心の中に輝き続けることと思います。縁あってみの は な 同窓会員になられたわけですが、みの は な 会には常に、皆さんのために何かしてお役に立ちたいと考えています。

同窓会はいわゆる親睦団体であり、その目的とする所は「医道の昂揚と会員の親睦」であります。年3回の会報を発行して医学部ならびに同窓会員の動静や活動状況をつぶさに報告しています。最近ではみの は な 同窓会のホームページも充実してきており、インターネットで最新の情報も発信しております。診療の合間に、各自のパソコンで閲覧していただくようお願いしたいと思っております。その他、図書館や学生寮への支援、運動部・文化部など課外活動・東医体への助成など幅広い賛助活動を実施しております。また関東各都県やその他の支部での会員活動へも積極的に支援してまいります。各県で勤務される皆さんは、所属する支部と連絡を密にして、その活動に参

加・協力していただくようお願いいたします。そして2年前に、千葉大学医学部創立135周年記念事業として、同窓会員総意のもとに、多額の浄財を募り、新同窓会館が完成しました。会員の母校愛の発露として、また医学部同窓生の絆の象徴として末長く活用されるよう希望しております。わが千葉大学医学部は、歴史的に優秀な研究者あるいは熱意溢れる臨床医を数多く輩出してきました。その中では不治の病に挑んで、独創的な手術方法を開発したり、難病の診断や治療に

紙面紹介

総会開催のお知らせ	1
卒業祝辞	2
人事異動	2
就任挨拶	5
叙勲感想	6
最終講義	10
奨学会	10
各地のみの は な 会	11
クラス会	11
雑文雑談	12
研修プログラム	13
研修医だより	13
研究活動団体だより	15
会員から	16
学内情報	18
卒業研修先	19
著書紹介	20
地区のみの は な 会報	21
随想	21
議事要旨	24
オンライン会報	24
編集後記	26



附属病院にし棟(左)と外来診療棟(右)

(済陽先生のつづき)
 取り組み、国際的評価を受けた人も多数いるわけです。皆さんも、これからも努力を重ね、これら諸先輩に続いて医療界に貢献する医師として大きく成長するように願っております。

さてこれから人生を如何に生くべきか。
 江戸期の米沢藩に上杉鷹山という第9代藩主がおり、名君と謳われました。この人は、宮崎・高鍋藩の3万石に満たない小大名の次男で、享保やのちの天明時代などの大飢饉で斜陽化した米沢藩に請われて養子となった訳ですが、この上杉公の『為せば成る、為さねば成らぬ何事も』の言葉は有名で、米国ケネディやクリントン大統領も最も尊敬する人物として挙げており、キャロライン・ケネディ米国外使も折に触れお話されています。その訳は、自分が17才で藩主となった時に、若輩ながら藩政改革を断行したからです。すなわち、

4月に発生した熊本地震による、犠牲者の方々のご冥福をお祈り申し上げますと共に、被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。

この米沢藩や人民は、己の物でなく、天から預かったものであり、人民の親として心を構え、復興のために儉約に努め、自ら新田開発や農作業を行い、養蚕、織物などの産業を育成し、教育所藩校『興讓館』を創設し、米沢藩中興の祖と謳われました。

このことは、わが医療界にも通じるわけで、病に苦しむ患者さんのために、基礎研究あるいは臨床診療に手分けして業務に邁進し、『医療というものは基本的に患者さんのもの』という概念を忘れることなく、精進されるようお願いいたします
 皆さんがこの千葉大学ですばらしい医学教育を受け、また今後さらに努力を重ね、将来おのれの人生を振り返る時、『医者になってよかった』、研究を続けてよかったとの感慨をもたらず人生を送られるようお願いいたします。
 本日は、まことにおめでとうございます。

平成27年度 卒業証書・学位記伝達式



人事異動

教授

薬理学

安西 尚彦(平2)

獨協医科大学より

環境労働衛生学

諏訪園 靖(平6)

同准教授より

長寿医学

真鍋 一郎

(鳥取大医・平2)

東京大学より

准教授

免疫発生学

平原 潔(新潟大・平13)

同特任准教授より

総合医療教育研修センター

朝比奈 真由美(昭62)

同センター講師より

探索的先端治療学

BIX MARK

同特任准教授より

未来医療推進治療学

木村 元子(平14院)

同特任准教授より

講師

画像診断・放射線腫瘍学

渡辺 未歩(平16)

臨床腫瘍学助教より

肝胆腫瘍学

古川 勝規(金沢大・平2)

臓器制御外科学助教より

精神神経科

橋本 佐(金沢大・平12)

同特任講師より

他大学教授

帝京大学

ちば総合医療センター

麻酔科・ペインクリニック

田垣内 祐吾(平元)

東邦大学医療センター佐倉病院

内科学神経内科

榊原 隆次

(旭川医大・昭59)

病院長

国際医療福祉大学三田病院

宮崎 勝(昭50)

JCHO

船橋中央病院

横須賀 収(昭50)

化学療法研究所附属病院

佐伯 直勝(昭50)

君津中央病院

海保 隆(昭57)

日本化学療法学会

「志賀潔・秦佐八郎記念賞」受賞



上原すゞ子名誉教授(昭31)の受賞が決定しました。平成28年6月10日に授賞式と記念講演会が神戸国際会議場に於いて開催されます。

上原名誉教授は疫癘の発症病因、小児呼吸器感染症原因菌判定、我が国へのHibワクチン導入などに60年間関わってきました。

* 志賀潔・秦佐八郎記念賞

北里柴三郎門下の志賀潔博士(赤痢菌を発見)と秦佐八郎博士(サルファ剤の発明)が化学療法分野で残した業績を後世に伝え、化学療法の発展を願って1990年に設けられ、感染症に対する化学療法の研究において優秀な研究業績を発表した日本化学療法学会会員に授与される。

就任挨拶

千葉大学大学院医学研究院

薬理学 教授

安西尚彦 (平2)



本年1月1日付けで中谷晴昭前教授(現千葉大学副学長・理事)の後任として千葉大学大学院医学研究院薬理学教授を拜命致しました。ののはな同窓会会員の皆さまをはじめ多くの方々にご支援を賜りましたこと、心より御礼を申し上げます。

5年前、獨協医科大学医学部薬理学講座主任教授に就任致しました際、「一度「就任挨拶」をさせて頂いておきますので、今回は平成23年以降を中心に今後の抱負を述べさせて頂きたいと存じます。

私は平成2年に千葉大学を卒業後、平成7年から北里大学医学部生理学に赴任し、基礎医学の道に進みましました。平成11年からは仏政府給費留学生として南仏コートダジュールのCNRS

規増感化合物開発(総額1・2億円)が採択され、学内での基礎臨床教室の連携や栃木県内の大学間連携の構築に貢献して参りました。

初勤務日となりました平成28年1月4日、久しぶりに亥鼻キャンパスに足を踏み入れたその日は2度目の入学式のような緊張感がありました。歴史のある医学部本館に足を踏み入れ、階段を上った3階の薬理学教授室では「千葉医科大学」ラベルが貼られ、代々の教授が使われたという机が私を迎えてくれました。この時初めて自分が第6代教授として歴史を継ぐことを実感し、その伝統の重さを感じました。約20年の時を経て母校に戻った私はまさに「浦島太郎」であり、母校におられる先輩後輩の皆さまのご指導無くしては何も出来ない赤子であります。とはいえ母校を離れ、北里大、フランス、杏林大、そして獨協医大というアウエー環境で得られた人の「つながり」が意外にも母校において生きていくことを感じ、決して学生時代に優秀ではなかった自分がなぜ今の時点で母校に戻ったのか、その意味を考えるに、母校を離れ学外で活躍するの

はなの同門の方々と学内の先生方との接点となり、人と人を「つなぐ」役割を担うことかな、と感じております。

千葉大学大学院医学研究院

腫瘍病理学 教授

池原 讓 (滋賀医大・平6)



平成27年7月1日付けで、腫瘍病理学教室に着任致しました池原讓と申します。ここ千葉大学で、ののはな同窓会の諸先生よりご指導をお受けし、病理学者としてさらに成長してゆきたいと考えております。このため本稿には、諸先生がご指導くださいます際のご参考となりましますよう、大学院博士課程を修了して就職した愛知県がんセンターでの8年間と、産業技術総合研究所(産総研)にて研究室を主宰して過ごしてきた10年間の代表的な活動をご紹介します。何卒よろしくお願いたします。

私の代表的な仕事としては、胃がんの腫瘍マーカー

ます。まだまだ力不足の私ではございますが、今後ともよろしくご指導のこと、お願い申し上げます。

として知られる stat1-Tn (sTn) 抗原を合成するシアル酸転移酵素遺伝子 (STGALNAc) と α 系列の ガングリオシド GD1a を合成する酵素 (STGALNAc) 遺伝子の発見のほか、グライコプロテオミクスのアプローチにより開発した「線維化検査用試薬 (HSC1-MBPG) 試薬」2015年1月1日付けで保険適用」を挙げることができます。大学院に入学した1年目に病理学と邂逅して以来、取り組んできたこれらの研究は、一般的な病理学者のそれとは違った印象であるかもしれませんが。しかしながら Robbins Basic Pathology の冒頭に「Defining the etiology and pathogenesis of disease not only is essential for understanding a disease but is also the basis for developing rational treatments」と記されていることを鑑みますと、私の

研究スタイルは、病理学者本来の姿に近いのではなからうかと思うに至っております。

私の研究スタイルを端的に表現しますならば、病理学の知識を Core Competence として活用し、技術シーズを次世代の医学・病理学研究で利用可能となるように展開することだと思います。実際、産総研における技術シーズとの出会いを出发点に、病理学の Core Competence をもって開発を進めて参りました。ちなみに、産総研の歴史は千葉大学と同様に古く、明治15年(1882年)に設立された農商務省地質調査所に始まり、産総研の前身には、日本の半導体産業の発展を牽引した電子総合技術研究所が存在します。このこともあり、私は、数多くの技術シーズに出会うことができた次第です。次にこのことに関連した、代表的な事例をご紹介します。

産総研には光通信の光電変換素子として InGaAs 結晶半導体や、半導体製造に不可欠なプラズマ技術についての長い研究の歴史がありました。故に産総研では、InGaAs 結晶半導体を利用したハイブリッド型 CMOS センサーの開発実用化と、

大気圧プラズマの止血制御技術への利用展開を行うことができた次第です。プラズマ止血デバイスとは、処置に際して焼灼を生じないので、外科手術の止血処置時に発生しやすい「熱による神経や腭組織等への損傷」を軽減できる新しいエネルギーデバイスとなります。また、1000-1600nm の近赤外波長域イメージング技術は、造影剤や蛍光物質を使用することなしに、脂肪組織の中のリンパ節や膵臓を視認可能とするため、リンパ節廓清の操作をナビゲーションすることや、マクロ病理診断のプロセスを効率化するシステムを実現できると考えております。

今後の展望として、産総研で始めたこれら技術を臨床へと橋渡しするとともに、日本の未来医療を支える病理学となることを目標に活動してゆきたいと考えております。

Begin and Continue. この言葉を常に意識し、ののはな同窓会の諸先生方よりご指導を賜り、未来医療の構築を先導する病理学者でありたいと思っております。ご指導・ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願いたします。

千葉大学大学院医学研究 環境労働衛生学 教授

諏訪園 靖 (平6)



平成28年2月1日付けをもちまして千葉大学大学院医学研究環境労働衛生学教授を拝命いたしました。この場をお借りいたしました。能川浩二教授をはじめ、これまでお世話になった千葉大学医学部同窓の諸先生方に心より感謝申し上げます。

私は平成6年千葉大学医学部卒業後、能川教授の衛生学に入学しました。衛生学の講義で企業の現場を見学し、また、タクシー運転手の健康状況調査を実習することで、社会医学に興味を持つためです。卒業後、臨床研修では往診を経験し、日常生活と疾患の関連の重要性を認識しました。大学院では、遺伝子多型の実験と論文作成に取り組み、研究のおもしろさに気づきました。

平成10年大学院卒業後、衛生学の助手として研究生

諏訪園 靖 (平6)

活を始めました。小学校の蛍光灯のPCB含有安定器破裂事故のリスク評価を担当し、専門性の還元による社会貢献にも興味を持ちました。平成15年にはスウェーデンのカロリンスカ研究所の金属と健康部門に留学させて頂き、国際的な研究活動とその重要性を認識しました。平成13年の医学研究施設により教室名が環境労働衛生学となり、准教授として、労働者、地域住民を対象とし、先進的疫学手法を応用して予防医学的、社会医学的に貢献出来るよう研究に努めてまいりました。労働衛生学分野では、交替制勤務の生活習慣病発症リスクの解明、交替制勤務従事年数の基準値算出、長時間労働の精神的健康影響などを報告しております。環境衛生学分野ではC d曝露による健康影響の評価をメインテーマとし、尿中C d濃度、米中C d濃度、生涯総C d摂取量の許容値の算出、C d曝露による生命予後への影響を報告しております。一連の結果は米A TSDR、EUのEFSA

といった公的機関に引用され、許容カドミウム摂取量の算定根拠になっております。遺伝子疫学分野においては、

遺伝子多型の疫学モデルへの組み込みの有効性の検証を実施してきており、G蛋白β3サブユニットとLDL受容体の遺伝子多型の組み合わせによる高脂血症の発症リスクなどを報告しております。今後は、労働者コホートを拡大し、カドミウム、労働衛生学、遺伝子疫学に関する環境労働衛生学をさらに推進し、国内、国際間の共同研究を推進することを目指しております。教育においては、これまで衛生学、スカラシップを担当しており、学外講師として千葉県医師会長や、企業の専属産業医といった地域医療の実践に活躍している先生方に、講義をお願いしております。また、企業見学、環境測定実習を通じ、実践の現場を感じてほしいと考えています。さらに、同窓の医系技官に厚生行政の実践について講義をしていただいております。「国民の健康を守る」視点を身につけ、さらに医系技官として働く学生が育っていくことを目指しております。社会医学を学び、研究する者として、社会貢献は重要な活動であ

り、今後も専門的知識を活用した社会貢献に積極的に取り組むたいと考えています。

千葉大学大学院医学研究 長寿医学 教授

真鍋 一郎 (鳥取大医・平2)



平成28年1月1日付で、千葉大学大学院医学研究 長寿医学に就任いたしました。伝統のある千葉大学の一員として、研究、教育に携わる機会を賜りましたこと、心より感謝申し上げます。

私は、平成2年に鳥取大学医学部を卒業、故真柴裕人教授が主催されていた鳥取大学医学部第一内科に入局しました。学生時代から分子生物学的な研究に興味を持っていたこともあり、平成4年より東京大学大学院医学系研究科第三内科の特別研究学生として矢崎義雄元循環器内科教授(現医療福祉大学総長)、永井良三前教授(現自治医科大学学長)のもとで、血管平滑筋細胞の研究を開始しました。

す。今後ともご指導、ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

平成9年に米国ヴァージニア大学医学部分子生理学生物物理学教室 Gary Owens 教授のもとで、さらに平滑筋細胞分化の研究を行いました。この留学時代に、遺伝子改変マウスを用いたエピジェネティクス制御機構の研究を立ち上げることができました。平成13年に帰国、東京大学循環器内科を中心に臨床と研究、教育に携わってまいりました。研究においては、大学院生時にその同定に携わった転写因子 MYO10 の機能解析を続ける中で、血管から心臓、脂肪、膵臓、腎臓、脳と対象臓器・組織を拡大することになり、最近では心血管疾患、糖尿病、メタボリックシンドローム、慢性腎臓病といった生活習慣病における慢性炎症の役割を中心とした研究を行ってまいりました。慢性炎症はいわゆる生活習慣病に限らず、多くの慢性疾患や癌に共通してみられる基盤病

態です。そのこともあり、学内外や企業の研究者との共同研究で、癌を始め、眼科疾患、整形外科疾患、リンパ浮腫等の研究を行う機会も得てきました。また、東大での医工連携を推進するために立ち上げられた医療ナノテクノロジー人材養成ユニットに参画する機会も得ており、工学系の研究者と冠動脈ステントやナノ粒子を用いた治療法の開発にも携わりました。このように、これまで循環器内科医としての臨床の視点を一つの軸に、研究においては、疾患のメカニズム研究から治療・診断法への展開までを視野に入れた多様な経験

を得ることができました。今後も、学内の先生方のご指導のもと、慢性炎症や臓器連関の切り口から、加齢関連疾患の分子機序を解き明かし、新たな治療・診断法へと展開し、健康長寿に貢献する研究を行いたいと考えております。同時に、これまで以上に後進の指導にも力を入れ、次代を担う医学研究者の育成に努め、千葉大学の発展のために全力で取り組んでまいりたいと存じます。おのほな同窓会の先生方には、ご指導、ご鞭撻、ご支援をいただきますよう何卒よろしくお願ひ申し上げます。

埼玉医科大学総合医療センター プレストケア科 教授

矢形 寛 (金沢大・平2)



私は平成2年に金沢大学医学部を卒業後、千葉大学医学部第一外科学(現在の臓器制御外科学)教室(当時、奥井勝二教授)に入局しました。その後平成3年

より中島伸之教授、平成13年より宮崎勝教授の下、外科の基礎を学び、乳腺グループに属してからは乳癌を中心とした臨床、研究を進めてまいりました。第一病理学教室(当時、三方淳男教授)にお世話になっていた頃は、乳腺病理の理解に力を入れ、病理学的見地に基づいた臨床を極めつつ、千葉県における画像診断レ

ベルの向上に努めてきました。中村清吾先生(昭57、現昭和大学乳癌外科教授、日本乳癌学会理事長)のお誘いもあって、平成16年から聖路加国際病院プレストセンターに移り、年間800例を超える手術件数の中で非常に貴重な経験を得つつ、院外でも活動を行って来ました。特に乳房温存治療における根治性と整容性のバランスについての啓蒙普及から、日本乳房オンコプラスティックサーージャリー学会の立ち上げ、日本画像研究会や日本乳腺甲状腺超音波医学会の理事として、乳房超音波ガイド下インターベンション手技の標準化などに力を尽くしてきました。さらに近年アンジェリーナ・ジョリー氏で話題となっている遺伝性乳癌・卵巣癌症候群の診療については、乳腺専門医、臨床遺伝専門医という2つの立場から国内で先導的役割を果たしてきました。今回縁があって、平成27年4月より埼玉県川越市にあります埼玉医科大学総合医療センターの教授職を拝命いたしました。当センターは病床数も900を超え、地域医療の中核を担っています。そのような中で科名をプレストケア科とし、キュアだけ

でなく、乳癌患者が社会の中で安心して暮らせるために「ケア」をも重視していくというミッションを掲げました。私は今まで通り医療の進歩に対して遅れることなく、スピード感を持って国際レベルの標準医療を遂行し、乳腺診療におけるオピニオンリーダーとなりながら、なおかつ患者のQ

OL向上を目指して科名に恥じない活動を行っていきたいと思っています。そのためにものはな同窓会の先生方との交流を是非とも深めながら地域医療に貢献できればと願っております。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

受章の挨拶

旭日双光章

旭日双光章を拝受して



吉井 功 (昭34)

喉科教室に入門し大学院終了後関連病院に出張、45年に千葉市で開業、55年に千葉市医師会理事就任。

その年、歴史に残る独占禁止法違反事件に遭遇した。公正取引委員会は「医師会は自由競争を阻害した」との審決を下した。審決は「開業医は事業者かプロフェッショナルか」を厳しく問いつつ、昭和30年に学部入学、ヨット部と勝山寮で青春を謳歌したが、3度の遭難事故で仲間一人を失う悲劇を味わった。事故は技術の未熟と情報(気象)の欠落によることを思い知らされた。35年に北村武教授の耳鼻咽

平成27年秋の叙勲で、旭日双光章の榮に浴した。自由な一民間人として、学校保健、公衆衛生、国民健康保険組合に関与してきた。昭和30年に学部入学、ヨット部と勝山寮で青春を謳歌したが、3度の遭難事故で仲間一人を失う悲劇を味わった。事故は技術の未熟と情報(気象)の欠落によることを思い知らされた。35年に北村武教授の耳鼻咽

文書上のインフォームド・コンセント最初の使用例となった。県医師会理事となつてから、集団予防接種に用いられるハイジエッターは、B型肝炎ウイルス伝染と神経障害の危険あり、インフルエンザ集団予防接種に理なしと発表。国はこの機器の使用中止に踏み切った。また、喫煙と健康世界会議を契機に、県医師会全員に喫煙調査を実施。男性医師喫煙率が、わが国初の30%切りの好結果を得た。成人病予防のための「考える／行動する／評価する健康教育」は、幸運にも平成6年度保健文化賞を受賞した。また、

藍綬褒章

藍綬褒章受章の榮に浴して

石川 広 己 (昭55)

ような身ではありませんからと丁寧にお断りしたこと覚えていて。その数日後、会長から再び受章を勧められた。今までに多くの諸先輩方の叙勲や受章に際してそのお祝いの席に参列しているが、何より若輩で業績の少ない自分がその対象になるとは考えてもみなかったところであった。しかし、会長から熱心にお薦



平成27年の初春に、横倉日本医師会長に部屋に来るようになると呼び出され、藍綬褒章受章の話を受けた。予想もしていなかった。予

県医師会保組合の改革を決行した。私は医師会活動にあつては、常にプロフェッショナルの気概をもって、

① 現行システムに異を唱えるときは、必ず対案を示す

② 事故を予測して安全で効率のよい運営を図る

③ 改革は恐れず断行する

を心掛けてきた。ヨットの遭難事故から多くを学んだが、集団における個人の尊厳を常に重視した。

大学を始め、級友その他実に多くの先生方のご指導ご協力に心より感謝を申し上げます。

めのお言葉を戴いてその榮に浴することにしました。叙勲や褒賞受賞はその人間の仕事や業績などにより天皇陛下から賜るものであり、後生まれの者にとっては若干の抵抗があつたし、そもそもその業績がなかった。私は千葉大学の学部の5、6年生の時にクラスの卒業後臨床研修委員長であつた。当時、自分でもこの卒業臨床研修に大変興味があり、学生的身分であつたが医学教育学会に参加しシンポジウムや講演を聴講したりしていた。当時はプライマリケアという文言が大いに流行っていた時代である。医学教育学会のシンポジウムでは、天理よろず相談所病院や関西の大学の総合臨床の指導医の意見が特に興味を引いた。彼らはプライマリケアの習得の観点から大病院や大学での初期研修を改善、改革すべきと声を上げていた。印象的なのは聖路加国際病院の日野原重明先生である。大学の初期研修ではプライマリケアは絶対身に付かないと断言していたのである。従って、私はプライマリケアを習得するために多くの同級生とは別に第一線の市中病院での初期研修を選んだ。

こうした経歴であるから大学医局での研究の業績などはなく、ただひたすらに第一線医療での一般診療に従事しているだけであつた。そのような中、今は故人となつたが、千葉大学の先輩である畑徹先生のすすめで鎌谷谷市医師会の役員となった。医師会活動も畑先生の牽持ちでいろいろと出歩く内にその重要性を大いに感じるようになった。特に、学校保健や予防接種に関する公衆衛生活動に興味をそそられ、その後、これも千葉大の大先輩である藤森宗徳千葉県医師会会長から県医師会の役員を命ぜられるところとなった。千葉県医師会では、定期予防接種を市町村の枠を超えて千葉県住民であればどこでも接種できるように相互乗り入れを可能にする仕事に従事したり、2009年の新型インフルエンザ流行の2年前から千葉県の新型インフルエンザ対策マニュアルを作成する仕事などを与えられた。もちろん2009年には、現実のものになった新型インフルエンザに対して千葉県庁職員らとその対策に従事した。当時は新型インフルエンザが「スペインかぜ」並みの強力なものであれば千葉県だけで多くの

死者が出るという予想を立てていたので、対策マニュアルを書いておき、対応マニュアルを書いているときはその恐ろしさを想像して汗が噴き出してくるほどであった。2009年の夏休みには県の教育委員会に出向いて、夏休み以降の新型インフルエンザ流行を阻止するため、前代未聞の学級閉鎖基準を要望し、発令してもらった。絶対に千葉県での大流行を防がなければならなかった。なにより、県庁での試算によって急激な流行が起きると、千葉県の中心では人工呼吸器が足りなくなる恐れがあったからである。夏休みが明け前に千葉県の教育委員会は我々の要望を受け入れてその「学級閉鎖基準」を発令してくれた。これはその後、千葉県での流行を遅らせることとなり、新型インフルエンザワクチンの供給に間に合うことができた。600万県民人口を擁する千葉県の新型インフルエンザの犠牲者が2009年中には0名であり、その後も2、3名であったのは県庁と教育委員会の決断であったと考えられている。

千葉県医師会藤森会長より日本医師会役員へ推薦され、今に至るが、東日本大震災では日本医師会の本部においてJMAT（日本医師会会員による被災地医療支援、2000名以上の先生方が東北に向かった）の司令部役を担わせて戴いた。今まで医師会活動を中心に、夢中で走ってきたことでの榮譽に与ることになったと考えているが、いかに

- 2016年 開催講座**
- 第1回 5月26日(木) 日本人の「食」と日本の農業の変遷 今井 敏(林野庁長官)
 - 第2回 6月23日(木) おもてなしのまちづくり 岡野 真(都市デザイナー)
 - 第3回 7月14日(木) 子供の食と未来 和田勝行(文部科学省課長)
 - 第4回 9月15日(木) 世界を魅了する和食文化 篠崎峰二子(食デザイナー)
 - 第5回 10月13日(木) 日本の農業がもつ可能性とは 青山浩子(ジャーナリスト)
 - 第6回 11月17日(木) 健康・長寿の食生活 済陽高穂(ゐのほな同窓会長)



群馬市民大学講座
ゐのほな同窓会長
済陽高穂氏が講演

市民大学講座は、かつて日本中の大学において火の手が上がった大学紛争の反省から、各地に発足した市民と大学を結び付け、互いに高め合い、新たな成果を生もうとする試みです。提唱者は世界的数学者岡潔奈良女子大学教授(故人)でした。群馬でも発足した市民大学講座は、いったん中断した後再開されて27年進められてまいりました。運営は受講生の個人会費と法人会員の会費によってまかなわれています。上武大学長を退任したとき、市民大学の学長を引き受けるようにとの要請が中央カレッジグループの中島利郎理事長からあり、爾来3年間ボランティア学長を引き受けて

にも若輩であり甚だ気恥ずかしく感じている。多くの方の多年にわたるご指導とご支援によるものであることは言うまでもないが、さらに励めよという叱咤激励と考えて今後も精進したいと考えている。

進めてまいりました。TPPなどの問題がこれからの農業に大きな影響を与える

年にあつて、今年のテーマを「日本の食と農の未来展望」として6名の講師に講演をお願いしました。市民の中で最も関心の高い「食と医療」に関する講演は、28年11月17日(木)千葉大学ゐのほな同窓会済陽高穂会長にお願いしました。同日会長をお迎えして群馬ゐのほな同窓会を予定しております。ゐのほな同窓会長をこのようなプログラムで群馬にお招きすることは初めての試みで、これを契機として群馬ゐのほな同窓会が活性化されることを願っています。

第92回千葉医学会学術大会

日時：平成28年 6月23日 (木曜日) 15時より
会場：ゐのほな記念講堂

特別講演 「がん手術から予防の時代へ —子宮頸がん—」

演者：高見澤 裕 吉 先生 (千葉大学 名誉教授・獨協医科大学 特任教授)
座長：白 澤 浩 先生 (千葉大学大学院医学研究院 分子ウイルス学 教授)



高見澤裕吉先生

招待講演 「考える愉しさ —産婦人科内分泌学から—」

演者：生 水 真紀夫 先生 (千葉大学大学院医学研究院 生殖医学 教授)
座長：稲 葉 憲 之 先生 (獨協医科大学 学長)



生水真紀夫先生

参加手続き及び費用は不要

多くの皆様のご参加をお待ち申し上げます
問合せ：千葉医学会 (〒260-8670 千葉市中央区亥鼻1-8-1 千葉大学医学部内・ゐのほな同窓会館内)

TEL：043-202-3755 FAX：043-202-3757
e-mail：info@c-med.org URL：http://www.c-med.org

最終講義

千葉大学整形外科教室
— 学問の系譜 —

整形外科学 高橋和久(昭51)



めなおし、将来を展望しようとするものです。

千葉大学の歴史、整形外科の歴史

最終講義の内容につきましては、千葉医学雑誌には全文が掲載されます。そこで、本稿では最終講義にてとくにお伝えしたかった事柄を述べさせていただきます。

私は昭和45年の入学以来、2年間の一般病院勤務と2回の海外留学を除き、千葉大学にて過ごさせていただきました。とても充実した時間でした。これらの経験は個人的なものではありませんが、千葉大学、千葉大学医学部、千葉大学整形外科という大きな流れの中でのさまざまな方々との出会い、さまざまな活動への参加から形作られてきました。最終講義の主旨は、私達はそれぞれこのような流れの中にあるのを見つ

とところで、「整形外科 Orthopedic surgery」という

言葉は、1741年にパリ大学学長 Nicolas Andry が著した「L'Orthopédie (整形術) 子供における変形の矯正・予防術」という本に由来しています。Andry は straight、あるいは free from deformity という意味の orthos に child を意味する pation をつけ Orthopédie という言葉を造語しました。日本語の「整形外科」という名称は東京帝国大学の田代義徳教授が、漢学者の永坂石球(せきたい)と相談し、「之を束ねてこれを打ちこれを正す。機能の正しいものは形も正しい」という意味をこめて「整」の字を採用したことです。今日、整形外科学は「骨、関節、筋、腱、靭帯、脊髄、末梢神経などの運動器の機能と形態の維持・再建をめざす臨床医学。運動器の解剖、生理、病理、診断、治療等を研究する学問」と定義され、保存治療、手術治療の進歩とともに、担当す

る領域は極めて広く、大きな発展を示しております。千葉大学整形外科の初代は鈴木次郎教授、2代は井上駿一教授、3代は守屋秀繁教授で、私は4代目にあたります。鈴木教授は56歳、井上教授は57歳で亡くなられております。守屋教授は大変お元気で現在横綱審議委員長をお勤めでございます。開講時の整形外科病棟は現在のイノベーショナルラザ近くにありました。鈴木次郎教授は第2外科出身で開腹術に精通しており、経腹膜の腰椎前方固定術を創始されました。第2代の井上駿一教授は、研究診療の範囲を脊椎のさまざまな分野に拡大されました。第3代の守屋秀繁教授は関節外科、とくに膝関節外科を発展させられました。守屋先生により開発された、人工膝関節ハイテクニーIIは現在でも広く使用されています。

私の歩んだ道

私は1950年(昭和25年)11月14日、松戸市で生まれました。子供の頃は、エンジニアとくに造船エンジニアになりたいと思っていました。高校の頃より、大学紛争が激化し、さまざまなことを考え志望を工学部から医学部に変更しました。一年浪人の後、昭和45年に千葉大学に入学しました。卒業後、自分の専門を選ぶ際にやはりエンジニアの要素のある整形外科に入局することいたしました。入局後、医局抄読会にて読んだ Lafferty の論文 (J Bone Joint Surg Am 1977; 59: [Pt2]) がきっかけで、井上教授からのご指示もあり、バイオメカニクス(生体力学)を研究することとなりました。はじめに、股関節手術患者の歩行分析を行い論文にまとめました(整形外科バイオメカニクス研究 会誌1977; 4: 3841)。入局後3年目に大学院に進学し、脊柱側弯症治療のための頭蓋骨盤直達牽引法である Halo-pelvic distraction apparatus を装着した患者さんの力学測定を行いました。この結果、Halo-pelvic distraction 装置により、脊柱の伸長を繰り返すに従い、伸長力は緩和を繰り返しながら次第に増加し、この緩和の割合は次第に減少しました。緩和の減少に伴い、項部痛、下肢腱反射の亢進などが出現しました。この研究が私の学位論文となりました(日整会誌 1981; 55: 411-23)。

この頃、海外留学から守屋秀繁先生が帰国されましたが、その際に米国 Mayo Clinic の Orthopaedic Biomechanics Laboratory における research fellow 募集のパンフレットを持ってきてくださいました。井上教授のお勧めもあり fellow に応募することいたしました。Mayo Clinic の Chao 教授から国際電話にて面接を行う旨の連絡が入りました。想定質問に対する答えを数十用意し、守屋先生に横についていたいで、国際電話を通じ電話をかけました。Mayo Clinic では2つのプロジェクトを割りあてられました。ひとつは四肢の骨軟部腫瘍切除後に特殊な人工関節置換術を受けた患者の機能評価というもので、主として歩行分析を行うものでした。今一つのテーマは、2方向同時X線撮影法による手指の3次元解析というもので、新鮮屍体を用いた指の動きの解析であり、人工関節を開発するための基礎データを集めることが目的でした。現在、千葉大学には新鮮屍体の研究施設であるクリニカルアナトミールラボがありますが、35年前にすでに Mayo では新鮮屍体を用いた研究が盛んに行われていました。

その後、1984年(昭和59年)に香港大学への留学の機会をいただきました。香港大学では、手術手洗いなど主として臨床の研修を行いました。また、英国の植民地の時代であり、病院内の会話は英語で行われておりました。整形外科の Yau 教授は当時すでにブライベートなクリニックに移られていましたが、大変手術の上手な方で、朝6時から車で向かえに来てくださり、7時前ころから腰椎の前方固定術を30分くらいで、私を前立ちにして、ほぼお一人で完璧にされました。翌1985年(昭和60年)、その後の私の学会活動で大きな存在となる、シドニーでの国際腰椎椎学会 International Society for the Study of the Lumbar Spine (ISSLS) に参加いたしました。この学会では井上教授も発表され、私は「The change of intradiscal pressure after chymopain injection」というタイトルの発表を行いました。その後、現在まで ISSLS での千葉大学からの演題数は着実に増加しております。2013年の米国アリゾナ州スコッツデールでの ISSLS では [Support from the world and gifts to the world] と

いうタイトルにて会長講演をさせていただきます。内容は、「わが国は古代から、中国、ポルトガル、オランダ、ドイツ、米国などの国々から医学をはじめ多くの知識・技術を導入して発展してきたが、今後はわが国から世界にむけて新しい知識・技術を送り出していきたい。」というものでした。その後、胸腰椎損傷に対する新しい anterior thoracod plate を作製し、高度すべり症に対する 2 期的な前方後方合併手術を考案いたしました。

千葉大学整形外科教室の今

昭和29年の開講以来、千葉大学整形外科教室からは多くの整形外科主任教授が誕生しております。富山医科薬科大学の辻陽雄教授、名古屋市立大学の松井宣夫教授、和歌山県立医科大学の玉置哲也教授、東京女子医科大学の伊藤達雄教授、加藤義治教授、東邦大学の勝呂徹教授、北里大学の高相晶士教授、筑波大学の山崎正志教授などです。この他にも同門からは各方面で活躍の先生方がおられます。現在、千葉大学の中には、医学研究整形外科学、フロンティア医工学センタ

1、予防医学センター、国際教養学部、総合医科学講義、医学教育研究室との連携を深めております。また、関連の大学として東京女子医科大学、北里大学、筑波大学、帝京大学ちば総合医療センター、東邦大学医療センター・佐倉病院があり、これに約30の教育関連病院が連携する形をとっております。千葉大学整形外科入局者数は、守屋秀繁教授の1990年頃にピークを迎えますが、開講から平均すると毎年10人ほどが入局しており、現在同門会員は600名を超えております。出身大学別入局者数では千葉大学出身者が約60%、千葉大学外の出身者が約40%を占めており、近年千葉大学外の出身者の割合が増加しております。同門の出身大学は海外を含めて64大学に及びます。私は医局の運営において、出身大学による区別を一切しない、自由な専門領域の選択を許す、大学院進学を推奨する、留学を推奨する、必要な収入を確保するなどの原則を守つてまいりました。

研究および将来行いたい基礎的研究について医局内で調査を行いました。その結果、行っている研究93課題と将来行いたい研究43課題が報告されました。中でもクリニカルアナトミーラボの利用実績は年々増加しております。内容的には肉眼解剖、医学研究、手術教育などに活用されており、多くのキヤダバーセミナーなどが開催されております。千葉大学整形外科の日本整形外科学会総会演題数は、守屋秀繁先生が学会を主催された2001年にピークをむかえ、その後一時低迷が見られましたが、最近では毎年30演題前後が採用されております。同じく日本整形外科学会基礎学術集会の演題数も着実な増加がみられております。

授が、「教室で大切にしていることは何か？」との質問をしたことがあります。私は「束縛や強制をされず自ら学問する「自由」です」と答えましたが、正しくは「専門職における自律」と思っています。「専門職における自律」professional autonomy は大切な概念と考えます。プロフェッションとは本来、法律家、聖職者、医師などの学問的素養が必要な知的専門職を指していました。「オートノミー、自律」とは他からの束縛を受けず自分の決めた規則に従うことをいいます。特にこの言葉は医師の職業規範を表す象徴として用いられてきました。確かに医師の場合、長期にわたる勉学と技術の習得により得られた体系的な知識と専門的技術を有しており、その判断や助言の正否を弁別することは一般の人々には困難です。さらに臨床医学においては、個々の患者に対する治療には複数の選択肢が存在することが多く、具体的な治療方針は患者の臨床的状況、環境、価値観、医療者の専門性、経験などに基づいて総合的に決定されるため、その判断の評価はきわめて困難です。近年患者の権利に関する認識が深まるにつれ、医師と患者

授が、「教室で大切にしていることは何か？」との質問をしたことがあります。私は「束縛や強制をされず自ら学問する「自由」です」と答えましたが、正しくは「専門職における自律」と思っています。「専門職における自律」professional autonomy は大切な概念と考えます。プロフェッションとは本来、法律家、聖職者、医師などの学問的素養が必要な知的専門職を指していました。「オートノミー、自律」とは他からの束縛を受けず自分の決めた規則に従うことをいいます。特にこの言葉は医師の職業規範を表す象徴として用いられてきました。確かに医師の場合、長期にわたる勉学と技術の習得により得られた体系的な知識と専門的技術を有しており、その判断や助言の正否を弁別することは一般の人々には困難です。さらに臨床医学においては、個々の患者に対する治療には複数の選択肢が存在することが多く、具体的な治療方針は患者の臨床的状況、環境、価値観、医療者の専門性、経験などに基づいて総合的に決定されるため、その判断の評価はきわめて困難です。近年患者の権利に関する認識が深まるにつれ、医師と患者

とは対等の関係であるとの考えから、患者は医師から分かりやすい説明を受け、それを十分に理解し、主体的にその医療行為を承諾し選択するという、インフォームドコンセントの取得が一般的となっております。このようにプロフェッションナル・オートノミーと患者の権利(自己決定権)は一見、対立矛盾する考えのように思われます。しかし、医療の高度化、複雑化にともない、医療に必要とされる知識、技術は膨大かつ日々変化し続けている中で、医師が高い倫理性に裏付けられた「自律」を保つには、最新の知識、技術の他、医療に関する情報を得る不断の努力が必要であり、そのような努力が患者の権利の保証にもつながります。医師の生涯学習の意義も必要性もこの点にあります。さらに、自律の考え方は診療のみならず、研究、教育あるいは生活全般にもあてはまると思っています。

最後に私の考える組織論について述べます。福島県立医科大学の菊地臣一先生は、ノルウェーのベルゲンにおいて「International Collaboration Beyond the Culture Gap」と題する「ISLSの会長講演をされま

した。お話しの後最後に「Competition is important, but collaboration is more important.」という言葉で結ばれました。先生は、研究における「独自性と協調性」の大切さについて述べられたものと考えます。論語の「君子は和して同ぜず」に通ずるものと勝手に解釈しております。各個人は個性を保ちながら競争し、一方ではグループを作り、協力して研究を進めます。他のグループも同様に研究を進め、一見競争関係にありますが、同時に協力も行います。すなわち、十分に目的を達成するには、組織の独自性を保ちつつ、他の研究者との協調性が重要と考えます。

学問の系譜は千葉大学整形外科において、脈々と受け継がれており、その一時期を教授として務めさせていただいたことに大変感謝いたしております。鴨長明の『方丈記』にある「ゆく河の流れは絶えずしてしかも、もとの水にあらず」という言葉が思い浮かびます。河には常に新しい水が流れているのに、河としての存在には変化がありません。学問の系譜もこのようなものであると思えます。

maruho

Excellence in Dermatology

皮膚科学領域での卓越した貢献を

マルホ株式会社 <http://www.maruho.co.jp/>



頭蓋顔面骨外科に挑んだ30年 — 顔面形態異常に心を病む小児から成人まで

形成外科学 佐藤 兼重 (昭51)



序

顔貌の異常に悩む人を外科手術によってよくすることができるといふ形成外科に興味をひかれ、昭和51年千葉大学卒業とともに昭和大学形成外科に入局しました。そして28年がたち千葉大学医学部形成外科学教授に選任され、2009年4月より7年間、務めあげることができました。この7年間はそれまでの仕事の集大成でしたが、昭和大学で長く携わった形成外科の広い範囲の中で特に力を入れてきた頭蓋顔面骨外科という特殊領域に挑んだ30年を顔面形態異常に心を病む小児から成人までというテーマで記述します。

頭蓋顔面骨外科

頭蓋顔面骨外科という語彙に聞きなれない先生方も多いかもしれませんが、顔面の形態異常で変形の中心が顔面の上1/3から中1/3に及ぶものに、その治療に際し開頭術のもとに脳硬膜を直視下に損傷しないよう配慮しながら頭蓋顔面骨の骨切り手術をして変形を治療する分野です。顔面変形を持つた患者(児童、成人)はそれぞれが生命に影響を与えることはほぼありませんが、社会生活の営みの中で精神的・心理的ハンディを負っていくことは想像に難くないと思います。したがって異常な形態の改善のためには大きな手術であつても治療を受けたいという患者がいることは事実で、そのための外科治療は必須と考えられます。これは顔貌の変形を治療するのに開頭術を併用してむしろ安全に行うという治療の話で、世界で最初に行われた症例は顕著な眼窩隔離症(hypertelorism (顔面の形成過程における胎生期の形成不全によって鼻が左右から癒合しそびれ、目と目が左右に著明に離れている状態)に対して眼窩骨の骨切りを

行い眼窩の移動をして治療するというものでした。このように開頭術を併用して頭蓋顔面骨の変形を治療するという外科手術がCranio-facial Surgery (頭蓋顔面骨外科)と称されました。この治療は1960年代半ばころ、フランスで行われ、その後世界に広く浸透した治療です。

頭蓋顔面骨外科の適応疾患

頭蓋顔面骨外科手術の適応となる変形は潜在的に決して多くはありませんが、形成外科では重要な領域です。それには頭蓋骨から眼窩にかけて特異な変形を呈する頭蓋縫合早期癒合症(CS)が最も多く、それ以外には眼窩隔離症をはじめとした頭蓋顔面裂や頭蓋顔面に及ぶ骨腫瘍、そして頭蓋顔面骨骨折をはじめとした外傷などがあります。特に頭蓋縫合早期癒合症には単発性の頭蓋縫合早期癒合(SICS)と顔面骨の低形成を併発したCrouzon病やApert症候群のような症候群性頭蓋縫合早期癒合症

(SYCS)があり、当然のことながら後者の症候群性ものは症状も多岐にわたり、その治療計画をしっかりと立てて治療に臨むことが大切となります。これらCSでは頭蓋内圧の亢進による知能発育の遅滞、発達の遅延をきたすことがあるために、早期(できれば生後6か月以下から1歳くらいまで)から脳圧亢進解除のための頭蓋拡大形成手術を行うと同時に頭蓋顔面変形の形態改善を行う必要があります。また特にSYCSでは頭蓋縫合の多発性早期癒合となるが多く、後方拡大、前方拡大などいくつかの拡大手術を行います。また顔面骨の低形成の程度により上気道狭窄、眼球突出などを呈することがあるために比較的早期から中顔面の前方移動術により上気道狭窄・眼球突出の改善治療を計画に組み入れる必要もあります。

顔面外科

顔面変形の治療のために開頭術を併用する手術をCraniofacial Surgeryとしましたが、顔面変形のために顔面中1/3から下1/3の骨切りを行う手術をMaxillofacial Surgeryと呼称します。この手術では主

に上顎骨、下顎骨の骨切り術を行うことにより治療します。対象疾患には口唇口蓋裂後顎変形や先天性、後天性の顎の左右の偏位、上顎骨の突出や下顎骨の突出さらには呼吸障害を生ずる可能性のある小顎症などが対象となります。いずれも顔貌の変形はその根底となる土台(顔面骨)の治療なくしては十分な結果は期待できず、むしろ顔面骨への治療により極めて高い効果が期待できるという特徴があります。

仮骨延長術

仮骨延長術とは骨切りを行った骨両端に特殊な固定具(延長具)を装着し装置を稼働することにより、骨切り断端を一日1mm程度抜けて骨欠損を人為的に作成し、この骨欠損部に速やかな骨新生を促すという術式です。この一日1mm前後という緩慢な操作によって、骨切り断端は機械的刺激により骨新生が進みます。本法は1951年に下肢の骨折に整形外科で応用したことから始まりましたが、長管骨よりも加重のかからない頭蓋顔面骨のような膜様骨により適応範囲が広いことが確認されています。この延長術は1992年片側顎骨の低形成を呈する先天性疾患(Craniofacial Microsomia)の下顎骨に応用されたのに始まり、その後には下顎骨のみならず、頭蓋骨、上顎骨、歯槽骨などに応用され、極めて有用な治療手段として認識され頭蓋顔面骨外科における手技のひとつとして特殊疾患の治療プロトコルに組みこまれていきます。仮骨延長術では前述のようにまず骨切り操作を施したのち、骨延長器を装着します。延長

器は3日前後の待機期間(Latency period)を置いたのち、一日1mm前後の延長を開始します。そして目的とする延長量が得られたのちにはその状態をそのまま最低2か月以上(consolidation period)保持することにより速やかな骨新生が期待できます。その後延長器はすべて除去、撤去して治療はすべて終了します。延長器具の装着は患者にいろいろな負担をかけるため、装置はできるだけADLの妨げとなりにくい装置や方法が考案されてきました。延長器は基本的には創内に埋め込まれる型が好ましいですが、症例や状況によって創外装置の使用もやむを得ないこともあります。当科では新しい延長装置の開発や作成に長く貢献し多くの業績を蓄積してまいりました。

結語

頭蓋顔面の変形が患者に与える精神的・心理的影響は大きく、患者が児童ならば成人して本人の意思決定に委ねるまで何もせずに看過することは得策ではないと筆者は考えます。このような外観の異常への積極的な改善治療の取り組みは医師の主観により専門医への



ニューヨーク大学前教授Dr. McCarthyへTessier Medal*授与。
*学会発足者Dr. Tessierにちなんだメダル。

紹介が遅くなることもあればあります。これに対する外科治療は時に大掛かりな手術となりますが、その治療効果は大きいために合併障害を極力ないような術前計画のもとに行うのであれば、学童から思春期に至る人格形成上に良好な結果をあたえるものと確信します。今までの約30年に約400例の頭蓋縫合早期癒合症をはじめとした頭蓋顔面骨外科手術、また約500例に及ぶ顎顔面外科手術を行い、顔面形態異常に心を病む小児から成人までの患者に少しでも貢献できたかと考えております。また序に記載しました通り、千葉大学での7年間は私にとってこの領域における集大成・研究

は大きく発展しました。そして昨年9月本邦で初めて第16回国際Craniofacial Surgery学会を大成功裡に開催し、世界の粋を千葉県に集め白熱した議論を戦わせることができました。この領域の治療と研究に全面的にご協力をいただいた千葉大学大学院医学研究院の先生方、ならびに附属病院形成外科外来、東9階病棟、南3階病棟および中央手術室の看護師・事務スタッフの皆さま、教室の三川信之准教授はじめ形成外科教室員の先生方、そして難易な麻酔を担当していただいた磯野史朗教授はじめ麻酔科スタッフの先生方など、病院関連各位に深く感謝し筆をおきたいと思っております。

公益財団法人 猪之鼻奨学会



猪之鼻奨学会は、
医学および薬学の研究をサポートしています。

寄附金に対するQ & A

Q1. 寄附はどのような方法でできますか？

財団指定の振込用紙を年1回発行（通常5月）する会報に同封させていただいておりますのでお近くの郵便局、銀行からご送金ください。郵便局からの送金手数料は無料、銀行からご送金される場合は、手数料を別途ご負担いただきますので、その額を差し引いてお振込みください。振込用紙がお手元がない場合は、財団へお電話、FAX、E-mailにてお問い合わせください。

Q2. 寄附をすると税金の控除が受けられて、税制面で有利と聞きましたが？

ご入金を確認後、財団から控除証明書と領収書をお送りします。これらの書類を証明書として確定申告の際にお手続きください。ご寄付頂いた寄附金については、税法上の優遇措置があります。寄附金控除額として算出し、申請可能です。

寄附控除として「所得控除」若しくは「税額控除」のどちらか有利な控除を選択いただけます。年間寄附金額や所得税率によって異なりますが、一般的に「税額控除」を選択していただきますと所得税額が少なくなります。

Q3. 寄附の用途を指定することは可能ですか？

可能です。振込依頼書に用途をご記入下さい。若しくは財団までご連絡ください。

Q4. 寄附がどのように使われたかの報告は行われるのでしょうか。

年1回発行（通常5月）する会報に、事業実績、財務を掲載いたします。

また、財団のホームページに掲載しております。寄付者には郵送にてお送りいたします。

Q5. 寄附をすると税法上以外にどのようなことがありますか？

一定額以上のご寄付を頂いた方への謝意の表明として、以下のことを行っております。

- ・ご芳名を会報に掲載（ただし掲載を希望されない場合はのぞく）
- ・ご芳名をホームページに掲載 5万円以上（平成28年度より実施予定）
- ・感謝状の贈呈 10万円以上（希望者）

Q6. 友人や同僚、家族などの連名での寄附はできますか？

連名あるいは団体名でのご寄附もできます。その場合、個人ごとの領収書の発行を希望なさる場合はお申し出ください。

【お問い合わせ先】

公益財団法人猪之鼻奨学会

〒260-8670 千葉市中央区亥鼻1-8-1 千葉大学医学部内

Tel & Fax 043-226-2509 E-mail: ishougakukai@chiba-u.jp

ご寄附にご賛同いただける方は
下記口座にお振込みください。

寄附金は税額控除の
対象となります。

ゆうちょ銀行

口座番号 00180-3-59844

口座名 公益財団法人猪之鼻奨学会

千葉銀行 本店営業部

口座番号 3397281

口座名 公益財団法人猪之鼻奨学会 会長 鈴木信夫

各地の は な 会 だより

埼玉の は な 会

平成27年10月18日(日)

の は な 同窓会 埼玉県支部 総会が、大宮パレスホテルで開催されました。埼玉県内4地区の持ち回りで、今年は大宮地区が当番幹事として、開催致しました。例年、8月第4日曜日開催が恒例となっておりましたが、最近の異常気象による猛暑のため、また、会員の先生方の高齢化の事もあり、8月を避けて10月開催となりました。また、東京支部長伊藤達雄先生(昭42)、栃木支部長崎尾秀彰先生(昭44)、茨城支部長中田義隆先生(昭36)、群馬支部長鈴木守先生(昭39)にもご出席いただきました。

はじめに、平成26年度に逝去された7名の先生方に対し、ご冥福を祈り黙祷をささげました。

つづいて吉川廣和支部長(昭40)の挨拶の後、会計報告、本部報告、事業報告が行われました。財務状況が厳しい中、支部誌「埼玉の は な」(第16号)を今年度も発行致しました。(編集担当、野口哲夫先生・昭48)。

総会の後、学術講演会を開催致しました。今回は、学内より、整形外科学教室高橋和久教授(昭51)をお招きし、「学内事情」と「超高齢化社会におけるロコモティブシンドローム」についてご講演をしていただきました。日本が超高齢化社会に突入した今、健康寿命を長く維持するためにもロコモティブ対策の必要性、重要性についてお話ししていただきました。ロコモティブシンドロームの概念からロコモーションチェック、ロコモ度テスト、ロコモーショントレーニングなど豊富な資料を基に解りやすく、熱く語っていただきました。また、高齢化社会の重要課題でもあるフレイル問題にも触れていただきました。高齢化社会が抱える多様な問題を指摘して頂きまして大変勉強になりました。

第2部は、埼玉の は な 会会員でもあり、社会保険診療報酬支払基金副審査委員長の諏訪敏一先生(昭43)に、「保険診療と審査制度ー現状と対応ー」という演題で保険診療を行うにあたっての決まりごと(ルール)や審査制度等について、基本的な事から関係法令など細部にわたり解りやすく解説して頂きました。保険医としての心得として保険診療のルールを熟知していることが前提であり、「知らなかったは、通用しない」と言う言葉が脳裏に焼き付きました。「カルテの記載忘れ」とは、知らなかった」などなどで、保険医の登録の取り消し等が起こり得ることも指摘されました。病院、診療所は医療法、医師は医師法を守り、療養担当規則を遵守することが必要であることを力説されました。非常に心に浸みわたる様な講演で、大変ためになる内容でした。

講演会終了後懇親会に移り、89歳の井上幸万先生(昭27)に、乾杯の挨拶をしていただきました。たいへんお元気でも今現役で診療されております。なお、井上先生は、平成26年9月1日瑞宝双光章を受章されました。心からお祝い申し上げます。

埼玉には、深谷赤十字病院、熊谷総合病院、さいたま赤十字病院、久喜総合病院、獨協医科大学越谷病院等関連病院が多くあり、各病院の現況をお話していただきました。埼玉支部会員は、約350名程おりますが、参加者は43名(来賓者を含む)で、来年の再会を



- 出席者
- 土屋興之(昭24)、井上幸万(昭27)、伊藤敏夫(昭30)、高橋康(昭30)、森碧(昭31)、田口勝(昭34)、中田義隆(昭36)、藤塚立夫(昭36)、松本出(昭36)、鈴木守(昭39)、加藤元一(昭40)、吉川廣和(昭40)、伊藤達雄(昭42)、伊藤進(昭43)、諏訪敏一(昭43)、崎尾秀彰(昭44)、済陽高穂(昭45)、小川富雄(昭48)、野口哲夫(昭48)、木村純(昭49)、弓削一郎(昭49)、高橋和久(昭51)、小林彰(昭52)、中村勉(昭52)、林田和也(昭52)、兵頭明夫(昭52)、上野泉(昭53)、西山秀木(昭54)、三澤博文(昭54)、渡辺恒家(昭54)、植松武史(昭55)、加藤雄一(昭58)、山下純男(昭58)、遠藤正人(昭59)、杉浦敏之(昭63)、吉留博之(昭63)、太田秀幸(広島大・平元)、甲嶋洋平(平2)、大庭秀子(平5)、新妻ゆり子(平9)、伊藤俊紀(川崎医大・平12)、渡邊悠人(平19)、小野嘉充(中村勉)

多摩の は な 会

秋も深まりつつある平成27年10月24日、第41回多摩の は な 会が国分寺丸井の8階、飛鳥ホールで開催されました。当の は な 会の新会長になられた山本弘先生の同級生で、の は な 同窓会前会長の伊藤晴夫先生をお招きしました。伊藤先生の講演「の は な 同窓会と千葉大学医学部の将来」を伺って、同窓会館だけではなく、医学部の建物を移



設する話、記念講堂の修理等々、実に様々な問題を抱え、また将来像の検討が行われていることを知り、伊藤先生だからこそ出来た同窓会の運営だと、一同納得しました。

会は、山本会長の挨拶と、個人個人の近況の報告に移りました。花岡建夫先生の「中山外科」の思い出、鈴木光先生の八ヶ岳の話、野本正嗣先生の医院と検死の話、藤田明先生の都立病院の話等、興味のあることばかりでした。研修医の高橋由希子さん、石川絢一君の研修状況の発表と、伊藤先生を交えての水泳部の話、留学先だったシカゴの話、泌尿器科の著書の話等と盛り上がり、和やかな雰囲気です。会員諸氏が親交を深めました。午後8時に、一本締めの後、来年の参加を確かめ、散会しました。

写真右から
前列：菊池友允(昭47)、花岡建夫(昭33)、伊藤晴夫(昭39)、山本弘(昭39)、鈴木光(昭36)、桑木綱一(昭41)
後列：石川絢一(平27)、高橋由希子(平24)、藤田明(昭55)、上田源次郎(昭53)、石川てる代(昭53)、松原公護(昭54)、野本正嗣(昭54)、(上田源次郎)

54

市川浦安のものはな会

平成27年11月21日(土)に市川市「白藤」で懇親会が開催され、16名が参加しました。加藤友衛支部長のあいさつで始まり、鍋谷欣市先生の乾杯の後に歓談、その後各自の近況報告がありました。皆で話をするのにはちょうど良い人数で話も盛り上がり楽しく時間を

過ごすことができました。西野卓先生の中締めで会を終了しました。竜崇正先生が発行されて間もない本「患者中心主義が医療を救う・竜崇正の挑戦」を参加者に配られました。県立佐原病院、千葉県がんセンターで病院の改革に取り組んだ実績が紹介されています。先生の活躍に驚くとともに頭の下がる思いがしました。写真右から



前例：小野清四郎(昭31)、小林延年(昭33)、横山宏(昭34)、鍋谷欣市(昭27)、篠塚正彦(昭和51)
2列目：竜崇正(昭43)
3列目：西野卓(昭47)、小野元子(昭51)、大森耕一郎(昭46)、田中則好(昭40)、佐々木望(昭41)、道場信孝(昭35)
後列：木村亮(昭57)、鈴木良一(昭54)、小野和則(昭51)、加藤友衛(昭38)
(加藤友衛、篠塚正彦)

クラス会

五窓会 (専23)

毎年続けてきた私達(専23卒)のクラス会(五窓会)は、今年も10月18日にJ.R東京駅ステーションホテルで開催されました。集まったのは同級生6名(鈴木忠男会長、新井邦男、神山幸雄、田中潤一、渡辺兼司、大平馨)と同伴者6名の計12名でした。全員90歳以上になりますと家族の付き添いがいり、最近では家族ぐるみの親睦会のように和気藹々です。私達のクラスは、卒後27年間死亡はゼロでした。その後年々亡くなる方が増え、とうとう卒後67年

で60名に達し、生存は17名になってしまいました。そのうちの6名が今年(因みに昨年は8名)集まったわけです。戦後70年の節目にあたり、思い出すのは在学中に千葉空襲で死んだ同級生の二人です。伊藤昌也さんは7月7日の夜中(七夕空襲)に防空壕に入っていて、下宿に焼夷弾が落ちたので演習どおり水の入ったバケツを持って消しに飛び出していつて焼死しました。壕に残った人は全員助かりました。翠朝、級友達が遺体を探しましたが、辺り一面見渡す限りの焼野原、皆黒焦げで損傷ひどく炭化状態で全然判別がつかず、遺体は何十人分かを全部ひと山にして、地区ごと一括野焼きにするから、それぞれ各自で焼け残るもので骨に目印をつけるという噂が広がったので、それでは東京と同じであんまり可哀そうだと、地面に接していた部分の一部がかるうじて学生服の生地らしい遺体を見つけ、リヤカーで大学の学生課の教室に運んできてしまったのでした。お昼ごろになったら、警察が検死をするから、遺体は一切移動したり触ったりするべからずとのお触れが伝わってきました。困っ

た私達は外科に頼んで、今朝運び込まれて大病院に入院後、病室で亡くなったことにした死亡診断書を書いて貰い、お通夜をし、翌日基礎教室の焼け跡で、焼け残りの材木を掻き集めて火葬にし、後日御遺族にお渡ししました。伊藤文明さんは、6月10日の午前、蘇我に在った日立工場の空襲の際に爆弾で即死でした。第一外科の戸崎芳樹さん

(昭12)もこの時に亡くなられました。なお、小児科で、川崎病の発見者で有名な川崎富作は健在です。ワガラスの誇りです。
写真右から
前列：神山夫人、神山幸雄、新井邦男、田中潤一
後列：大平夫人、神山令息、渡辺兼司、鈴木忠男、渡辺夫人、田中夫人、鈴木夫人、大平馨
(大平馨)



2015.10.18

「六葉会」(専24)

平成27年11月21日(土) 銀座アスターお茶の水賓館で、昭和24年専門部卒業の「六葉会」を開きました。卒業後66年とつと、七割のクラスメイトは冥界に旅立ち、後の三割の人は米寿になろうとしており、一部のものは90歳になつています。そのため昨年のクラス会は3人しか集まらず、流会になつてしまいました。

以前申し合わせでは、皆が満88歳を迎えたらクラス会を解散しようという事もあり、数えの米寿の歳を最後にしようという事にして、今回は集まりが何人でも開催することにしましたのです。結果、中村彰君、幹事の徳政義和、神山一郎の3人となり、徳政君の奥様の計4人となりました。その席上我々の「六葉会」は残念ですが今年限りで解散し、これからは個人同士で集まることにしました。

写真右から 徳政夫人、徳政義和、神山一郎、中村彰 (神山一郎)



雑 文 雑 談 与力の話

石 出 猛 史 (昭52)

江戸幕府で与力という役職は、大御番・御書院番・西丸留守居・御先手組(御弓・御鉄砲)などの様々な部署に配置されていた。しかし与力の代名詞のようになっているのは、江戸をはじめ京都・大阪など幕府直轄地の町奉行所の与力である。ここで扱うのは江戸の南北町奉行所与力である。天正18年(1590)板倉勝重が町奉行に任ぜられた際、配下と与力の役にあてたのが起源といわれている。格式は目見以下・一代抱だが実際は番代といって相続されていた。禄高は2百石。服装は役上下といつて、執務時に上下を着用した。諸役との与力の中では一番格下とされ、他の役に転ずることもなかった。定数は南北25騎ずつだが、実員数は23騎ずつであった。2騎分は、町奉行が個人的に選任した用人3名と目安方2名の席である。用人のうち主だった2名を内与力と称した。用人と目安方は町奉行の秘書役で、本来の町方与力の職務には関わらなかった。在職中は直参であるが、

町奉行が辞すると陪臣にもどった。与力の職掌は、江戸の武家地・寺社領を除いた町家地の、行政・司法・経済統制の執行である。南北それぞれ5組に分けられ、各組の支配与力の下で、詮議役・牢屋見廻・養生所見廻・市中取締・例練方・町会所掛・米蔵宿取掛・吟味物調など20余りの職務を分掌した。幕末には、外国掛・神奈川表取締掛などの職務も加わった。これらの組には、下僚として同心が配置されて実務を担った。知行所の管理も含めて、与力の全職掌を管理したのが、南北に2人ずついた年番与力である。町奉行所与力と千葉県は大変深い関係があった。与力一人宛2百石50騎分計一万石の知行所が上総国と下総国に分散していた。これらは大繩地といつて、個々の知行所として与えられているのではなく、まとめて管理されていた。上総国では山辺郡に、下総国では葛飾郡・千葉郡・埴生郡・香取郡の村々に知行所があった。北は他に下総国の匝瑺

郡にも知行所を持っていた。南は30カ村、北は31カ村である。馬加村(現千葉市花見川区幕張町)・船橋村(現船橋市宮本町・本町・湊町・海神)は南北の相給地であった。『与力同心姓名帳』という記録を見ると、文政年間北の5千石の明細が載っている。与力23人4千3百80石(組)支配(与力)役料百50石・用人目安方5人4百石・残知70石となつている。与力一人あたりの知行が2百石というが、実際は百50石から2百石までいた。組支配になると役料がつくので2百20石5人扶持になる。年功を積んで加増されて2百石になるとあるが、必ずしも禄高と勤続年とは一致しない。与力の間で家格の違いがあつたのだろうか。徳川吉宗の時代に、馬加村にあった北の給地で、飢饉対策のためのサツマイモ栽培に成功した。後にサツマイモの栽培は隣接した検見川でも行われ、澱粉さらにはアメの製造販売にまで発展した。千葉市の加曾利貝塚公園内に建つ大須賀代官旧宅は、馬加村の北の知行所の給地役を務めた名士の住居で、1700年ごろの創建と伝えられている。与力の拝領屋敷は、北島

町・岡崎町・亀島町などの俗にいう八丁堀にあつた。現在の茅場町1〜3丁目と八丁堀1〜3丁目にあたる。中村静夫氏が著した嘉永6年の八丁堀組屋敷図の解説を読むと、屋敷地の面積の平均が南が3百40坪強、北が2百70坪強であった。拝領地の一部を貸家にしていう者が多かった。2、3軒というものが多かったが、中田郷左衛門のように、6軒所有している者もいた。借家人は、儒者・医者・按摩・手跡指南(書道家)・絵師などであつた。八丁堀七不思議のひとつ「儒者・医者・犬の糞」といわれた由縁であろう。犬の糞というから犬も多かったものか。借家人には、佐倉藩士の息子で後に脚氣治療の名医といわれた遠田澄庵、蘭方医でお玉ヶ池種痘所の設立に尽力した戸塚静海の名もみられる。

お詫びと訂正
171頁
よんまる会写真説明
後藤いづみ↓飯野いづみ
お詫びして訂正させていただきます。

協和発酵キリン株式会社 http://www.kyowa-kirin.co.jp
Commitment to Life
グローバル・スペシャリティファーマ。抗体医薬をリードする、協和発酵キリンです。
KYOWA KIRIN

研修プログラム

臨床腫瘍部

千葉大学大学院医学研究院 臨床腫瘍学

教授 滝口 裕一 (昭58)

臨床腫瘍部ではさまざまな悪性腫瘍の薬物療法、集学的治療の一翼を担う診療

す。臨床腫瘍部では初期研修

を担っています。臓器別の診療では対応が難しい原発不明がん、成人軟部肉腫、粘膜型メラノーマ、性腺外胚細胞腫、重複がんなど臓器横断的な対応が必要な疾患を中心に診療しております。肺がんの領域では多くの臨床試験や未承認薬の治験に取り組んでおり、日本の代表的施設と共同研究を行っています。一般的には「腫瘍内科」と呼ばれる診療科ですが、病院全体の化学療法レジメ管理、外来化学療法室の運営などにも責任をもつ中央診療部の役割も担っています。大学院でのカウンターパートは「先端化学療法学」であり、病院籍と合わせて教授1、講師1、助教1の少ないスタッフ(総合内科専門医2、がん薬物療法専門医2)ながら6名の大学院生が在籍し、4月からは中国からの留学生を研究生として迎えています。

臨床腫瘍部では初期研修医も歓迎しますが、後期研修の期間には内科専門医研修を、その後はサブスペシヤルティ研修として腫瘍内科専門医(がん薬物療法専門医)研修をしていただくこととなります。新しい専門医制度が始まったばかりなので未確定の部分もありますが、附属病院の内科系診療科と共同で取り組む内科専門医研修プログラム(3年間)を通じて腫瘍学とそれに関連する内科学一般を研修していただきます。当科での内科専門医研修の内容はがん化学療法に加え、腫瘍緊急症にも含まれる感染症、内分泌代謝異常(電解質異常など)、心タンポナーデ、脊髄圧迫・脳脊髄圧亢進症、腎機能障害、肝機能障害など内科領域全般にわたります。それぞれの専門診療科と連携して研修することになります。この期間には附属病院内外の他診療科ローテートによる研修も含まれます。その後はサブスペシヤルティ研修を行います。がん薬物療法専門医(がん薬物療法専門医)研修プログラムは内科専門医研修プログラムの最長1年間の重複が認められる予定です。臨床腫瘍学会が規定する研修期間も現行の5年から3年に短縮される方向で検討されています。サブスペシヤルティとして腫瘍内科を専攻する予定がある場合には後期研修の1年目から大学院に進学することを勧められています。分子標的治療薬、免疫チェックポイント阻害薬の進歩によりがん薬物療法はパラダイムシフトを迎え、これを支えるためのリサーチチャインドを涵養するには大学院での研究がますます重要になってきました。専門医研修と大学院での研究を両立させるにはそれなりの努力が必要ですが、当科では大学院3年までは病棟と外来化学療法室での診療を中心にし、外来診療は大学院4年目以降に研修することにより、大学院での研究も十分行えるよう配慮しています。もちろん個々の目的と希望によって、あるいは大学院に進まない専攻医にあつてはそれぞれ個別に対応致します。

日本ではまだまだ歴史の浅い腫瘍内科です。多くの専攻医を歓迎します。

千葉市立青葉病院

病院長・千葉大学臨床教授

山本 恭平 (昭57)

千葉市立青葉病院は千葉市中央区にある380床の急性期病院です。もうひとつの市立病院である海浜病院との機能分担として救急医療、身体合併症を持つ精神疾患、血液疾患といった政策的医療に積極的に取り組んでいます。

当院には内科(消化器、循環器、呼吸器、血液、内分泌代謝、神経、膠原病、総合診療)、消化器外科、整形外科、産婦人科、泌尿器科、精神科、児童精神科、皮膚科、小児科、歯科、リハビリテーション科、麻酔科、救急、病理で計89名(うち初期研修医14名)が在籍しています(4月より眼科、耳鼻科も常勤医が着任予定)。

当院での救急医療は、救急部を中心に年間約4000件の救急搬送を受けており、その数は千葉市でもトップクラスですが、特に夜間の入院適応のある患者さんの受け入れが多いのが特徴です。内科、整形外科、

初期研修は、基幹型7名、千葉大との協力型3名の1学年10名を受け入れていきます。毎週火曜日と金曜日には受け持ち患者についてのカンファレンス、月曜日、木曜日には研修医講義、第一月曜日には総合診療部生坂教授との合同カンファレンスが行なわれており教育体制が確立しています。1年目に内科6カ月を研修しますが、各サブスペシヤルティに分かれたローテートなしに総合内科として研修を行なっているために同時期に様々な疾患を経験することが出来ます。さらなる利点として入院期間の長い患者さんをつつと受け持てる、内視鏡、腹部エコーの検査を6ヶ月継続できるといったこともあります。半年間で70〜80症例の受け持ちをすることになり、その間に腹水、胸水、腰椎穿刺、中心静脈栄養、胸腔ド

レナージ等の手技も数例ずつ経験します。在籍中には必ず内科学会をはじめ基幹学会で発表をもらうことになっています。救急研修としては、毎週日勤帯に2、3回、当直帯に1回程度の研修を受ける機会があり、上級医と2人のペアで診療を行ないます。2年終了時には、ほぼすべての救急車をファーストタッチで診ることができるようになります。

最後に当院に在籍するのはな同窓会会員の医師を紹介いたします。内科：山本恭平(昭57、院長) 循環器内科：志鎌伸昭(獨協医大・昭61、循環器内科統括部長、医療連携室長) 石尾直樹(平21院、大久保健二(平23院)、芝大樹(平22) 呼吸器内科：瀧口恭男(昭62、呼吸器内科統括部長、ICT)、佐藤峻(平25) 血液内科：横田朗(昭63、診療局長、血液内科統



最後に当院に在籍するのはな同窓会会員の医師を紹介いたします。内科：山本恭平(昭57、院長) 循環器内科：志鎌伸昭(獨協医大・昭61、循環器内科統括部長、医療連携室長) 石尾直樹(平21院、大久保健二(平23院)、芝大樹(平22) 呼吸器内科：瀧口恭男(昭62、呼吸器内科統括部長、ICT)、佐藤峻(平25) 血液内科：横田朗(昭63、診療局長、血液内科統

括部長)、小野田昌弘(新潟大・平4)、鐘野勝洋(埼玉大・平9)、中尾三四郎(平25)消化器内科・橋川嘉夫(昭60、内科統括部長)、宮本禎浩(新潟大・平4、消化器内科統括部長)、島山一樹(浜松医大・平11)、新井英二(東京医科大・平16)、岡本四季子(平26)糖尿病代謝内分分泌科・吉田知彦(平9、糖尿病代謝内分分泌科統括部長)、大野友寛(平25)神経内科・和田猛(平13、主任医長)リウマチ科・小林芳久(平15、医長)外科・安藤克彦(群馬大・昭60、医療安全室長)、小田健司(昭61、外科統括部長)、清水康仁(秋田大・平6、消化器外科統括部長)、登内昭彦(長崎大・平7)整形外科・村上正純(昭54、副院長)、岡本弦(昭59、背椎外科統括部長)、六角智之(昭63、整形外科統括部長)、坂本雅昭(昭60)、茂手木博之(東邦大・昭62)、渡辺仁司(山形大・平5)、山口毅(東邦大・平17)、佐藤淳(藤田衛生・平18)、小曾根英(平21)、沖松翔(平25)泌尿器科・岡野達弥(昭55、副院長)、石原正治(平6、泌尿器科統括部長)、松本精宏(平17院)、高橋正行(平14)産婦人科・西脇哲二(昭61、産婦人科統括部長)高

野始(昭62)小児科・大嶋寛子(山梨医大・昭63、小児科部長)眼科・星野章子(平10、眼科統括部長)麻醉科・鈴木洋人(平2、麻醉科統括部長)皮膚科・遠藤秀治(昭63、皮膚科統括部長)、青柳直樹(平25)救急科・森田泰正(平11、救急科統括部長)、高橋和香(平14)精神科・野々村司(平10、精神科統括部長)、大岩宜博(平20)病理科・窪澤仁(昭56、病理科統括部長)リハビリテーション科・青墳章代(大分医大・昭59、リハビリテーション科統括部長)初期研修医(平27)高橋典子、青山和弘、桑原千尋(平28)近藤丈丈、新納美都子、堀尾亮輔、高崎敦史、菅野未知子

研修医だより

後期研修に臨んで

千葉大学医学部附属病院
耳鼻咽喉・頭頸部外科

米田理葉(平23)



私は平成23年3月に千葉大学を卒業し、同年4月より2年間君津中央病院にて初期研修を行いました。平成25年4月からは千葉大学医学部附属病院の耳鼻咽喉・頭頸部外科に入局し、関連病院の千葉県がんセンターと松戸市立病院にて研修を行い、本年度より千葉大学病院に勤務しています。

10、精神科統括部長)、大岩宜博(平20)病理科・窪澤仁(昭56、病理科統括部長)リハビリテーション科・青墳章代(大分医大・昭59、リハビリテーション科統括部長)初期研修医(平27)高橋典子、青山和弘、桑原千尋(平28)近藤丈丈、新納美都子、堀尾亮輔、高崎敦史、菅野未知子

喉科に対する興味が湧きました。また耳鼻咽喉科の知識を深めるとともに、医者としてあるべき姿、心構えなどを先生方の診療の姿勢から学べたことも新鮮な体験でした。

初期研修時代には関連病院での耳鼻咽喉科診療を研修し、大学病院では見ることのできなかつた一般的な耳鼻咽喉科疾患にも触れることができました。その時に感じた耳鼻咽喉科の魅力としては、頭頸部外科医としてダイナミックな手術をしつつ、聴覚・平衡覚・嗅覚・味覚という感覚器、嘔下・発声という機能を有した運動器官を有する幅広い分野を扱っているということです。実際にどの科に入局するかは迷いましたが最終的な決め手となったのは、扱う分野が幅広く皆が何かしらのスペシャリストになれる可能性があるということ、多くの女性医師の先輩方がいて、多種多様なキャリアを生き生きと積まれているということでした。

で、一つの病院ですべてを学ぶということは難しいことでもあります。初めの2年間で耳鼻咽喉科の一般的な疾患を学び、大学病院での研修では大学病院でしかみることのできない頭頸部腫瘍や特殊な疾患を学ぶことができるので、最終的には耳鼻咽喉科の広い領域を網羅して研修することができそうです。大学病院では定期的なカンファレンスが開かれており、その場で診断や治療方針を詳細に学び、更に学会での発表や論文執筆にも熱心な指導を受け学術的な研鑽を積むこともできます。

また大学病院の研修では屋根瓦式の教育体制をとっており、後期研修医の上には若手医師、そしてその上には指導医がおり、教えられたことは更に下級の医師に教え継ぐというチーム医療を行っています。後期研修医は教えてもらったことを初期研修医に、そして実習に来る医学生にも指導することで自分が得た知識をより深く理解し、新たな発見・学習に繋げることができそうです。どの医師も教育熱心であり、かつて学生時代に教えを受けたようにその屋根瓦の一枚として成長し続けられるよう私自身も努

力をしています。
まだまだ未熟で学ぶことばかりの日々ですが、これからもより一層精進していきたいと思っています。そして新たな若い先生達と一緒に働けることを心より楽しみにしています。



お詫び
171号
14頁
研修プログラム成田赤十字病院記事に千葉大学医学部卒業生で整形外科の先生方のお名前が掲載されておりませんでした。申し訳ございません。改めて掲載させていただきます。

整形外科・齋藤正仁(昭54、副院長)、板橋孝(昭57、整形外科部長)、喜多恒次(昭59、整形外科部長)、林浩一(平22院)、リハビリテーション部副部長、乗本将輝(平22)



目の前のあなたのために。世界のみんなのために。

一人を愛する気持ちで、世界も愛したい。
そして田辺三菱製薬は、国際創薬企業へ。

THE KAITEKI COMPANY
三菱ケミカルホールディングスグループ



田辺三菱製薬

http://www.mt-pharma.co.jp

課外活動団体だより

ゴルフ部

千葉大学医学部ゴルフ部は1983年に設立された部活です。その昔にはほとんど部員がおらず幽霊部のような時代があったようですが、現在では55名の部員を抱える大部活にまで成長することができました。

部活は月曜日と水曜日の夜に蘇我にあるゴルフ練習場で行っており、ほぼ月一回のペースで実際のコースでラウンドしています。義務練習自体は他の部活より少なめではありますが、部員の自主性を尊重してこのようになっております。週に4回以上練習に励む向上心溢れる部員も数多く存在しており、ゴルフにどれだけ打ち込むかを個人で決めることができます。また、ほとんどの部員が大学からゴルフを始め、初心者にも寛容であるところや、女子でもマネージャーではなくプレーヤーとして活動できるところが魅力となっており、毎年多くの新入生が入部を希望してくれるようになりました。個々人のカ

医学部3年 野本 義長

ラーが強く多様性に富んでいるため、飽きることなく楽しく過ごすことができる部活です。

ゴルフ部として参加する大会には春季・秋季に行われる全日本医科大学ゴルフ連盟大会や東日本医科学生総合体育大会のほか、コメディカル戦や新人戦など多くの大会があります。昨年度の東医体では男子団体で数十年前ぶりに5位入賞、新人戦では男子で野本が個人5位入賞、女子では倉田が個人準優勝し団体としては3位入賞を果たすなど部活として着実に強くなってきております。全日本医科大学ゴルフ連盟ではA・B・Cと3つのリーグがある中、千葉大学は現在Bリーグに属しています。昨年度はAリーグ昇格をかけて入れ替え戦に臨みましたが、惜しくもAリーグ昇格を逃してしまいました。今年度こそは男子はAリーグ昇格、女子は団体入賞を目標に練習に励んでおります。ゴルフは風や傾斜、ボー



ルのある場所の状態によって打ち方や攻め方を変える必要があるため、肉体と頭脳を駆使する競技となっております。同じコースをラウンドしても、ボールを取り巻く環境は常に変化するため、二度と同じゴルフはできません。まさに自然との一期一会のスポーツであると言えます。一期一会ゆえのワクワク感や奥深さ、そして寂しさや難しさを内包しているところがゴルフ

の魅力でしょう。魅力ばかりに思えるゴルフですが、唯一のマイナスポイントは金銭面であります。遠征費や大会分担金が増額される中、良い環境の下で部活を運営することができているのはOB・OGの先生方のご支援のお陰でございます。この場を借りて御礼申し上げます。先生方への感謝を忘れず、今後とも良い報告ができるよう部員一同精進して参ります。

ゴルフ部役員
 主将 野本 義長
 副将 小林 和樹
 小林 俊幸

亥鼻ダンスサークル(ダンス部)

医学部3年 佐藤 嵩浩

亥鼻ダンスサークル(IBC)は2005年に活動を始め、昨年度に設立10周年を迎えたストリートダンスサークルです。高校からの経験者や元々ダンスに興味があって大学から始めた人など、様々な部員が参加しております。練習は基本的に参加自由であり、ダンスをがっつりやりこみたい部員は勿論、ほかの部活と兼部で、来られるときに来ている部員も多くいます。ここ数年で西千葉キャンパスからも参加者が増えたり、段々と規模の大きな団体になりつつあります。

練習は基本的に毎週金曜日の18時から20時まで、おのはな同窓会館やポートアリーナ、千葉市内の貸スタジオ等を利用して行っております。練習の間には談笑が混じりつつ、雰囲気は明るくもしっかりと基礎をこなせるようにして公演に備えております。金曜日以外にも、公演を意識して場

主務 倉田 有菜
 副務 粕谷 悠樹
 会計 大庭 雄太郎



所をpushし練習に励む部員も多くおります。1年間における主な活動としては、4、5月の新歓期に於ける新歓公演や練習会といったイベントに始まり、夏と冬の年2回に行われている軽音部のDJ

イベントである「ソウルフル」にゲストとして枠を頂いて出演しています。例年10、11月頃に行われる亥鼻キャンパスの文化祭である「亥鼻祭」の準夜祭と後夜祭のステージに出演するなどしております。これらのイベントが近づくと、各ジャンルを率いるジャンルリーダーはもちろん、参加する部員それぞれが時間を作り、予定を合わせて振り付けを覚え皆で揃えることに力を注いでいます。「ストリートダンス」と聞くと浮ついたような印象、

とつつきにくい印象を持たれるかも知れませんが、いざ踏み込んでみると身体が思うように動かせないようになる楽しさや奥深さで溢れています。そしてIDCは自分たちだけでなく観る側も楽しめるように練習はしっかりと行いつつ、あくまで普段は自由度の高い部活として活動することを目指しており、そんな空気感を魅力に感じ、参加する人数が増えるようになってきたのだと考えております。

まだまだ歴史の浅い部活ではありますが、これから

千葉大学シミュレーション勉強会 (HPS研究会)

医学部6年 川端 あづみ

千葉大学シミュレーション勉強会(HPS研究会)は2012年1月より開始した勉強会です。

千葉大附属病院シミュレーションセンターでHPSシミュレーターを使用し、医師・看護師・薬剤師として実際の状況に近い急変シナリオに関するワークショップを定期的に行っておりま

す。HPSとはHuman Patient Simulatorの略で、患者さんの状態を再現するこ

もぶれることなくIDCらしさに溢れた活動を続けて参りたい所存でありますので、この私の稚拙な文章を最後までお読みになつてくださった方には、誠に恐縮ではありますが、先ずは玄鼻にこんな部活があるのだと頭の片隅に記憶しておいて頂けたら有り難いです。どうか応援のほど宜しくお願い致します。

IDC役員
 代表 及川 明日香
 事務代表 佐藤 高浩
 会計 鄭 幸佳
 交渉人 前田 隆志

とのできる高性能のマネキンです。心音、呼吸音、腹部蠕動音の聴診、頸動脈、上腕動脈などの触知、静脈路確保、気管内挿管などができ、モニター上にECG、酸素飽和度、血圧などを表示することも出来ます。私達が卒業前に学ぶ講義で得る知識や、病院実習で学ぶことと卒業後に実際の患者さんの前で「何を考え、何を聞き、どう動くか？」判断できる能力の間には大きな溝があります。

医師国家試験問題では予め患者さんの背景や既往歴、検査値やバイタルサインなどが与えられています。しかし実際の臨床現場では、限られた時間の中で患者さんの病歴を聞き状態を把握することが特に救急現場では難しく、そのために診断までに時間がかかってしまったり、患者さんに不安を与えたりということも少なくありません。学生の間にはシミュレーション勉強会を通じて卒業後の臨床現場で「まず動く」ことのできる臨床研修医になることを目的として発足されました。しかしながら臨床経験のない学生間の勉強会だけでは、現場が必要となる適応力を習得するには限界があります。急変シナリオを実際の救急現場でおきている症例のように再現して下さるのが千葉大学の先輩でもあります東京ベイ浦安市川医療センター救急科部長志賀隆先生です。

志賀先生は米国で救急医療とシミュレーション教育に深く携われ、お忙しい中ご尽力下さりご指導いただきことができました。先生のご指導により緊迫した救急現場の中で思考停止にならずに、問診や身体診察

を行い「見逃していけない疾患」「可能性の高い疾患」を挙げ検査をオーダーするシミュレーションを行っています。また、この勉強会ではこういったシミュレーションを研修医、指導医、看護師など役割を与えられてこなします。チームでうまくコミュニケーションを取って診療し、どう指導医にプレゼンテーションするか？についてもご指導いただくことでコミュニケーションやプレゼンテーションについても学ぶことができました。加えてこの勉強会

では診断して終わりではなく、シミュレーション後は丁寧なフィードバックを行います。その中で自分達がどういった時に思考停止に陥ってしまうか？についても気づきが多くあり大変勉強になりました。この勉強会が、実際の救急現場で率先して考え動くことのできる力を身につけるための一助になればと願っております。

HPS研究会役員
 代表 齋藤 大之
 副代表 川端あづみ



超ビジネス保険 (休業補償)

診療所が損害を受け、休業することによって生じるリスクを補償します。

地震による休業損失も補償します！*

*地震休業補償特約がセットされ、震度6強以上の地震により完全休業した場合に限ります。なお、診療所の所在地等により地震休業補償特約条項をセットした契約をお引受けできない場合があります。詳細は、取扱代理店または引受保険会社にお問い合わせください。

先生方のケガや病気による休診は対象となりません!

地震休業補償の事故例

診療所が所在する都道府県の震度観測点において、震度6強以上が観測された地震によって...



- 1 診療所が損壊したため、診療所の営業が完全休業した。
- 2 電気、ガス、水道等の供給が中断したため、診療所の営業が完全休業した。
- 3 交通遮断で職員が出勤できず、診療所の営業が完全休業した。

「お問合せ先・取扱代理店」

PIONEER 株式会社パイオニア

〒297-0001 茂原市七渡3499-2
 Tel 0120-36-8442 Fax 0120-36-1061
 http://www.pioneerltd.com/

「引受保険会社」

東京海上日動火災保険株式会社
 医療・福祉法人部 法人第一課
 Tel 03-3515-4143

会員から

ベルリンの大学名について

高野 光司 (昭33)

ドイツが東西に分裂して
いたころ、境界線はブラン
デンブルク広場を横切っ
て、凱旋門は東側にあっ
た。そこから始まるウン
ター・デン・リンデン通りを
数百メートル行くと、左側
に大学の入り口がある。両
側に大きなウイヘルムと
アレキサンダー・フォン・
フムボルト兄弟の坐像、20
メートル程の奥正面に物理
学者ヘルムホルツのこれも
大きな立像がある。

兄弟はいずれも、ゲッテ
インゲンでstudierenしてい
た。studierenとは大学で学
ぶことである。ところが、
1789年の7月、フラン
ス革命が勃発するや、兄ウ
イヘルムは直ちにパリへ、
弟のアレキサンダーも、そ
の年の秋には大学を退学し
た。フンボルト家はパリと
縁が深いがここでは言及し
ない。

も称した。
現在の、デュッセルドル
フ大学の医学部は、大学
(Univ.) ができる前はMe-
dizinische Akademieと称
していた。1970年頃創
立されたハノーファーの医
大は今でもMedizinische
Hochschuleと称しているよ
うだ。レベルは、いずれも
ゲッティンゲンの医学部と
同じ、すなわち学生が、終
了すれば医師国家試験が受
験できる(正確には国家試
験に合格すれば卒業でき
る)。これらの単科大学は、
博士号授与権を持つて
いた。

最近と言ってもここ30
40年、大都市はもつと多く
のUniv.が必要になって、
一都市一総合大学ではた
りなくなつた。かつての大
きな工大は、たとえばミュ
ンヘンの工科大学は、今では
TUミュンヘンと称してい
る、TUとはTechnische-
Univ.の略である。Univ.で
あるからには、いろいろな
学部を必要としている。本
学昭和42年卒の外科医、更
科廣實さんがこの大学医学
部に留学していた頃附属病
院は確か入院棟1400
床を有していた。またTU
ミュンヘンは近年大学ラン
クでは古くからあるミュ
ンヘン大をしのぎ、ほとんど

はひとつだけだったので、
「ベルリン大学」、また大学
附属病院は長年大学創設の
百年前から親しまれていた
「シャリテ」と呼ばれてい
た。
1945年第2次世界大
戦終結により、ドイツは米、
英、仏、露に占領されベル
リンは東西に分断された。
大学の大部分は東側にあっ
たが、もちろん共産主義国
では、皇帝の名は嫌われ
フンボルト大学と改称され
した。

リンの二つの大学に帰属す
るらしい。
いづれにせよ、近頃大学
の印刷物、同窓会報171
号(17頁、18頁)にあるよ
うな「シャリテ医科大学」
は存在しない。ドイツの

「Univ.」はすべて国立であり、
授業料はないか、あつても
条件付きで、日本のそれに
比べれば無きに等しいこと
を付け加えておこう。
*編集部註・シャリテ・ペルリ
ン医科大学のこと

欧州医学史巡り —パリ—

杉田 克生 (昭54)

ドイツ語でも、Universi-
tasは総合大学をいう。語
源はむろんラテン語の宇宙、
全世界を意味するUnivers-
sumとかUniversitasであ
る。古典的ではフアウ
ストの始めのモノローグに
「お、すべての学問、哲
学、法学、医学それになく
もがなの神学までも究め
た。」とあるように四つの学
部からなつていた。私の留
学時代(1963—65)
のゲッティンゲンは、学生
数約八千、物理学や数学な
ど自然科学も哲学学部に入
属して、大学は四つの学
部から成立していた。

単科大学はHochschuleで
ある。日本の大学の中に
は、これをHigh schoolと同
意と思つてか、高等学校と
訳している人が少なくない。
医学や音楽その他の学科の
単科大学は、アカデミーと

1806年には、プロシ
アは、ナポレオンに負けて
伝統あるハレの大学を失っ
ていた。その代償がほしか
つた頃よく、ウイヘルム・
フォン・フンボルトが新し
い理念を持って、彼にとつ
て当時理想的と考えられて
いたゲッティンゲンの大学
を模して1810年首都ベ
ルリンに大学を創設した。

大学には、時の皇帝フリ
ードリッヒ・ウイヘルム
の名前が付けられた。大都
市ベルリンではあるがUniv.

最近の欧州特にパリでは
物騒なニュースが多い。旅
行者も激減しているそうだ
が、やはり訪れてみたい都
市のひとつである。パリへ
は日本から直行便で12時間
前後だが、深夜便もあり、
忙しい方でもパリ滞在を有
効に使える。パリはフラン
スの首都だけあつて、医学
史施設は豊富である。以下
筆者自ら訪問した施設の一
部を簡単に紹介する。

パリ大学は12世紀まで遡
れる欧州最古の大学の一つ
である。現在地に医学部が
置かれたのは、1795年
衛生学校エコール・ド・サ
ンテの開設に始まる。この
学校(現パリ第5大学)医
学史博物館中庭には、「疾病
の座は組織にある」と述べ
たビシャールの全身ブロンズ
像がある。館内は他の医学

史博物館同様種々歴史的医
療機器が展示されている。
尿路結石採取器を見て、ナ
ポレオン3世も治療され
たのかと想像した。脳の電気
刺激装置もある。クロード・
ベルナルは「医者はその
ぞれ実験者である」と述べ
たが、フランス精神神経学
の「生物学的人間観」の歴
史を垣間見られる。この博
物館は3階だが、階段を下
りると2階にシャルコーが
「神経病講義」を実施してい
る有名な絵画がある。シャ
ルコーの友人で、「多発性硬
化症」の命名者であるヴェ
ルピヤンの像も博物館から
歩いて数分のところにある。
パリで代表的な病院の一
つに、ノートルダム寺院隣
のオテル・デュエがある。
セーヌ川の中州のシテ島に
キリスト教会の中心地が築

プロイセン王国にはゲッ
ティンゲン大学が創立時に
模範とした、ハレや、哲学
者カントもいたケーニヒス
ベルク、などいくつかの大

ある。日本の大学の中に
は、これをHigh schoolと同
意と思つてか、高等学校と
訳している人が少なくない。
医学や音楽その他の学科の
単科大学は、アカデミーと

1806年には、プロシ
アは、ナポレオンに負けて
伝統あるハレの大学を失っ
ていた。その代償がほしか
つた頃よく、ウイヘルム・
フォン・フンボルトが新し
い理念を持って、彼にとつ
て当時理想的と考えられて
いたゲッティンゲンの大学
を模して1810年首都ベ
ルリンに大学を創設した。

大学には、時の皇帝フリ
ードリッヒ・ウイヘルム
の名前が付けられた。大都
市ベルリンではあるがUniv.

最近の欧州特にパリでは
物騒なニュースが多い。旅
行者も激減しているそうだ
が、やはり訪れてみたい都
市のひとつである。パリへ
は日本から直行便で12時間
前後だが、深夜便もあり、
忙しい方でもパリ滞在を有
効に使える。パリはフラン
スの首都だけあつて、医学
史施設は豊富である。以下
筆者自ら訪問した施設の一
部を簡単に紹介する。

パリ大学は12世紀まで遡
れる欧州最古の大学の一つ
である。現在地に医学部が
置かれたのは、1795年
衛生学校エコール・ド・サ
ンテの開設に始まる。この
学校(現パリ第5大学)医
学史博物館中庭には、「疾病
の座は組織にある」と述べ
たビシャールの全身ブロンズ
像がある。館内は他の医学

史博物館同様種々歴史的医
療機器が展示されている。
尿路結石採取器を見て、ナ
ポレオン3世も治療され
たのかと想像した。脳の電気
刺激装置もある。クロード・
ベルナルは「医者はその
ぞれ実験者である」と述べ
たが、フランス精神神経学
の「生物学的人間観」の歴
史を垣間見られる。この博
物館は3階だが、階段を下
りると2階にシャルコーが
「神経病講義」を実施してい
る有名な絵画がある。シャ
ルコーの友人で、「多発性硬
化症」の命名者であるヴェ
ルピヤンの像も博物館から
歩いて数分のところにある。
パリで代表的な病院の一
つに、ノートルダム寺院隣
のオテル・デュエがある。
セーヌ川の中州のシテ島に
キリスト教会の中心地が築



ラ・サルペトリエール病院内にあるピネルの銅像

かれ、その後、老病者の施設が発展したものである。中庭など自由に見学できるが、処々にキリストやマリヤ像などがあり、教会の延長としての医療機関であると再認識させられる。

病院教会としては、ラ・サルペトリエール病院がある。本来は非行少女、売春婦、狂人などを収容する施設であったが、非人間的扱いをうけていた。人間性回復の改革に着手し精神病患者の鎖を解き放ったピネルの銅像は病院前広場にある(写真)。ちなみに18世紀最後の啓蒙主義的オピニオン・リーダーと称されるピネルは本来内科医である。従来の臨床医学は治療方法の発見にのみ専念してきたが「病気の本質を正確にとらえる必要性」を提唱した。紙面の関係で詳しくは紹介できないが、聴診法で有名

なラエンネックのレリーフがネケル病院にある。「全ての病気の診断は、患者の身体所見にもとづいてなされなければならない」としたラエンネックの言葉を思い返す機会となる。医学史を学ぶ必要性もここにある。

ちなみに1761年発表のモルガニの臓器病理学を理論的武器とし、同年アウエンブルガーが発表したがうずもれていた打診法を1806年に復活発展させたのは、ラエンネックの師コルビサルである。それまでの思弁的医学を排してベッドサイドにおける実践的・経験主義的医学を提供し、今日の診察法の先駆けとなった。患者の観察を重視し、「純理論的な仮説や単なる個人的見解に従って重要なことをしてはならない」と警告している。

第36回全日本医科学生オーケストラフェスティバル開催のご案内

2016年8月12日(金)

千葉大学のはな音楽部に私達千葉大学のはな音楽部が主管校として、第36回全日本医科学生オーケストラフェスティバルを開催する運びとなりました。

全日本医科学生オーケストラフェスティバルは、全国より音楽を愛好する医・歯・薬・看護系大学の学生有志が集い、オーケストラを通じて相互の親睦を深めるとともに、大学や学部を超えた仲間と作り上げた音楽の成果や、オーケストラそのものの楽しさ、素晴らしさを多くの方々に伝えるために設立されました。1981年に第1回演奏会を開催して以降、毎年演奏会を継続しています。

オーケストラをお聴きになる方はもちろんのこと、普段お聴きにならない方も本演奏会にぜひご来場いただきオーケストラの生演奏を楽しんでいただければと思います。また千葉大学のはな音楽部としても、毎

年9月の定期演奏会や千葉大学医学部附属病院、千葉市立青葉病院での院内コンサートを通じて地域の方、入院患者さまへ音楽を届ける活動を行っております。今後も保護者の方々や同窓会の皆様に見守っていただければと思います。

千葉大学のはな音楽部
全日本医科学生オーケストラ連盟 実行委員長

医学部6年 盛 裕貴

36TH ALL JAPAN MEDICAL STUDENTS' ORCHESTRA FESTIVAL

第36回 全日本医科学生オーケストラフェスティバル

ショスタコーヴィチ 交響曲第8番

リムスキー=コルサコフ スペイン奇想曲

ウォルトン

映画音楽『スピットファイア』より 前奏曲とフーガ

指揮：広上淳一

2016 8/12(金) 開場 17:20 開演 18:00

ミュンザ川崎シンフォニーホール

チケット 全席自由 前売券：1,000円 当日券：1,200円

5月12日より販売

- ・チケットぴあ (Pコード295-457)
- ・ミュンザ川崎 シンフォニーホールチケットカウンター
- ・ミュンザWebチケット

お問い合わせ先
HP: <http://natsuoke.com>
E-mail: contact@natsuoke.com
Tel: 080-5208-7269 (担当 盛)

※先着10組20名の方に当演奏会の招待券をご用意いたします。上記メールアドレスにのみのはな同窓会報を見た旨をお書きの上、住所、氏名、年齢、電話番号を添えてご連絡下さい。

日時：2016年8月12日 (金)
開場：午後5時20分
開演：午後6時

場所：ミュンザ川崎 シンフォニーホール (JR川崎駅より徒歩3分)

ホームページ <http://natsuoke.com> お問い合わせ contact@natsuoke.com 080-5208-7269 主管校：千葉大学

学内情報

の は な 同 窓 会 支 援

第6回 白衣式祝辞

平成28年1月29日(金) 於 記念講堂

の は な 同 窓 会 長

済 陽 高 穂 (昭45)

本日は学生の諸君ならびにご父兄の皆さん、白衣式おめでとございます。本日白衣を授与されて臨床実習に進む訳ですが、これはこれまで4年間の教養課程や基礎医学の学習と違い、患者さんを前にした実地の医療の教育であり、この事は医学部がいわゆる職業学校であることを物語るものです。即ち諸君達の先輩である経験豊富な医師たちから、病める人を前に、病氣への取り組み方、患者さんへの接し方を一人一人手ずからマンツーマンで教わる事です。

わが千葉大学医学部は歴史的に、優秀な研究者や熱意溢れる臨床医を数多く輩出して来ました。不治の病に対して独創的な手術を開発したり、あるいは難病への診断や治療法に取り組んで国際的な評価を受けた卒業生も見受けられ、中にはノーベル賞候補にノミネー

トされた方もおられます。また医師のソサエティである日本医師会の会長にもあの は な 同 窓 会 員 から 選 ば れ ました。このような輝かしい先輩に続いて諸君もこれから、医師見習いとして医療チームに参入し、誠意を持って患者さんに接し、常にベストを尽くす心掛けで実習に臨んでください。

医学はそれに携わるすべての人間が努力を傾ける医科学、すなわちサイエンスの学問でありますが、『医療』は誰のものかと言いますと、患者さんのものでありこの概念は洋の東西を問わず世界共通のものなのです。また『医療の要件』つまり医療に必要な条件として、約100年前の1917年に米国外科医学会が定めた、すなわち「安全、有効、患者中心、即時的、効率的、公平」が現在も尊重されています。

一昨年には千葉大学創立

135周年事業の一環として各界のご協力を得て、実に63年振りに新しい同窓会館が落成しました。これをクラブ活動などに大いに活用し、またあの は な 台 における皆さんの友情を育む同窓の拠り所となるよう願っております。皆さんがこの千葉大学で素晴らしい医学教育を受け、医療界に貢献する医師として成長するよう同窓会も精一杯支援したいと思っております。おのれの健康にも充分留意して頑張ってください、健闘を祈っております。

付記

医学部白衣式は看護教育における戴帽式と同じくするものですが、その歴史は浅く、式典としては1993年米国コンピア大学で始められ、全世界の医学学校に広まりました。我が国では2006年慶応大学医学部で初めて行われ、現在では、ほぼ全医学部の行事となっています。千葉大学では2011年に第一回を実施(千葉大学医学部医学教育研究室ホームページに掲載されており、動画再生可能)、今回が6回目となり、本年の参加学生は106名であり、中には同窓の父兄が4名おり、祝辞をのべた

平成28年度白衣式 誓いの言葉

私達は、思いやりと誠実さを持って患者さんに接し、患者中心の医療の実践に努めます。患者さんに対し、身体・心理・社会的側面を含めた総合的な視点を持つことを心掛けます。全ての医療職の専門性を理解・尊重し、常に敬意と感謝の念をもって真のチーム医療を目指します。医学の発展と洗練に尽力するとともに、公衆衛生の向上に寄与し、社会貢献に努めます。人命を預かる医療者としての自覚と責任感を持って行動し、謙虚な姿勢を持ち続けます。以上の初心を忘れず、日々向上心を持って自己研鑽に励みます。

医学部後援会副会長の父親からわが娘に白衣を着せかける、微笑ましい情景も見られました。また最後に学

生代表数名が「誓いの言葉」として、医療人への決意を述べました。



平成28年卒業生の卒後研修先

1年目	2年目	人数	1年目	2年目	人数
国立病院機構千葉医療センター	国立病院機構千葉医療センター	8	JR東京総合病院	JR東京総合病院	1
船橋市立医療センター	船橋市立医療センター	7	日本赤十字社医療センター	日本赤十字社医療センター	1
国保松戸市立病院	国保松戸市立病院	7	東京都保健医療公社豊島病院	東京都保健医療公社豊島病院	1
君津中央病院	君津中央病院	6	国際医療福祉大学三田病院	国際医療福祉大学三田病院	1
千葉市立青葉病院	千葉市立青葉病院	5	公立阿伎留医療センター	公立阿伎留医療センター	1
成田赤十字病院	成田赤十字病院	5	がん研有明病院	東京大学医学部附属病院	1
横浜労災病院	横浜労災病院	5	日産厚生会玉川病院	東邦大学附属病院	1
東京女子医科大学八千代医療センター	東京女子医科大学八千代医療センター	4	東京医科歯科大学医学部附属病院	未定	1
済生会習志野病院	済生会習志野病院	4	青梅市立総合病院	青梅市立総合病院	1
千葉メディカルセンター	千葉メディカルセンター	4	千葉大学医学部附属病院	千葉労災病院	1
東京新宿メディカルセンター	東京新宿メディカルセンター	3	国立国際医療研究センター国府台病院	国立国際医療研究センター国府台病院	1
国保旭中央病院	国保旭中央病院	3	千葉県がんセンター	千葉県がんセンター	1
千葉労災病院	千葉労災病院	3	東邦大学医療センター佐倉病院	東邦大学医療センター佐倉病院	1
千葉大学医学部附属病院	未定	3	津田沼中央総合病院	津田沼中央総合病院	1
東京大学医学部附属病院	東京大学医学部附属病院	2	千葉西総合病院	千葉西総合病院	1
国立病院機構東京医療センター	国立病院機構東京医療センター	2	松戸市立病院	千葉大学医学部附属病院	1
東京歯科大学市川総合病院	東京歯科大学市川総合病院	2	船橋中央病院	千葉大学医学部附属病院	1
東京ベイ・浦安市川医療センター	東京ベイ・浦安市川医療センター	2	下志津病院	国立病院機構千葉医療センター	1
武蔵野赤十字病院	武蔵野赤十字病院	2	亀田総合病院	亀田総合病院	1
沼津市立病院	沼津市立病院	2	名戸ヶ谷病院	名戸ヶ谷病院	1
国立病院機構千葉医療センター	千葉大学医学部附属病院	2	国立病院機構相模原病院	国立病院機構相模原病院	1
東京都立駒込病院	東京都立駒込病院	1	横浜市立市民病院	横浜市立市民病院	1
東京都立広尾病院	東京都立広尾病院	1	湘南鎌倉総合病院	湘南鎌倉総合病院	1
東京北医療センター	東京北医療センター	1	横浜市立みなと赤十字病院	横浜市立みなと赤十字病院	1
東京通信病院	東京通信病院	1	深谷赤十字病院	深谷赤十字病院	1
国家公務員共済九段坂病院	国家公務員共済九段坂病院	1	日立製作所ひたちなか総合病院	日立製作所ひたちなか総合病院	1
公立学校共済関東中央病院	公立学校共済関東中央病院	1	長野医療生活協同組合長野中央病院	長野医療生活協同組合長野中央病院	1
虎の門病院	虎の門病院	1	みやぎ県南中核病院	みやぎ県南中核病院	1

POLA PHARMA INC.

世界の人々に笑顔と感動をお届けしたい
という願いから
健やかで美しい皮膚を目指す医薬品企業が誕生しました

株式会社 ポーラファルマ

同窓会員著書の紹介

高林 克己(昭50) 著

高齢者終末医療 最良の選択

扶桑社 定価1400円(税別)

篠宮 正樹(昭50)



に」という章立てです。周囲のものが困らないように、具体的な行動として元気づけに「事前指示書の作成」をする提唱は注目に値します。

自分でじっくり考えてみたい謎として、「時間」「無限」「宇宙」「私」「心」など沢山あります。「この世界から自分がいなくなることは、もつとも重要な、でも日常生活では少しわきに置いておきたい謎です。」

高林先生は、早期から超高齢社会の到来に危機感を抱かれました。2012年に千葉大学に高齢社会医療政策研究部を立ち上げ、超高齢社会研究センター長、2012〜13年千葉県「終末期医療」に関する高齢者向け啓発プログラム開発・実施事業」の有識者会議議長を務めておられます。国もこの方面の対策を開始しました。

高林克己先生の近著「高齢者終末医療―最良の選択」は、それをじっくりと正面から考える機会を与えてくれます。延命処置は受けないと多くの方が言われますが、それだけですと、いざというときに悩ましい問題に直面します。

本書は「超高齢社会がもたらす危機」入院から在宅へと進む流れ「終末期医療をどう考えるか」「事前指示書を作るにあたって」「最後まで自分らしく生きるため

ローグをどのように過ごしたいかを考えるきっかけになる」と好評で、これまでに計600人以上が参加(千葉大学HPによる)。その内容を1冊にまとめたのが本書で、読売新聞でも紹介されました。

小中学校を巡り「生まれて来たことの素晴らしさ、生命の不思議さを説いて自分を大切にしておこう」という講話をしている私共NPO小象の会の活動に通じます。私もこの本を読んで、以前に読んだ関連分野の書物を読み直して哲学しました。子供たちへ死生観を語る山折哲雄氏の著書もありました。それを考えてこそ、自分も他者をも大切にでき、人生も味わい楽しめると思います。充実した一日を過ごしてこそ、良い眠りに就ける。

この本が広く読まれ、事前指示書が市民に定着することを願っております。

死に支度 いたせいたせと 桜かな (一茶)

ついに行く道とはかねて聞きしかど 昨日今日とは思はざりしを (在原業平)

よんまる会50周年記念誌



眼科学教室同窓会 2015年第52号



小象の会 会報特別号(20号) 創立10周年記念号



の は な 同 窓 会 への 寄 附

中島 浩一(平5) 一万円

ありがとうございました。

千葉県職員人事異動

保健医療大学教授

小川 真(昭57)(新採) 東本恭幸(昭59)

(こども病院医療局診療部 小児外科部長)

病院長

こども病院

星岡 明(昭58)

病院長(副病院長)

青墳裕之(昭55)

副病院長(医療局長)

伊藤千秋(昭55)

医療局長

(医療局診療部長)

高相道彦(浜松医大・昭61)

医療局診療部眼科部長

(主任医長)

鈴木啓之(昭61)

医療局診療部形成外科部長

(主任医長)

循環器病センター

村山博和(昭55)

病院長(副病院長)

松尾浩三(昭55)

副病院長(医療局長)

峯清一郎(昭55)

医療局長

(佐原病院医療局長)

がんセンター

高山 亘(昭60)

医療局診療部長

(佐原病院医療局診療部長)

鍋谷圭宏(昭60)

医療局診療部食道・胃腸外科部長

(医療局診療部消化器外科部長)

精神科医療センター

深見悟郎(平7)

副病院長

(診療部診療科部長)

佐原病院

山本 宏(昭53)

医療局長

(がんセンター医療局診療部長)

森山稔弘(弘前大・昭63)

(精神科医療センター副病院長)

東條雅季(昭58)

(佐原病院医療局診療部長)

貝沼 修(昭61)

(がんセンター主任医長)

宇田川晃一(昭53)

(こども病院診療部形成外科部長)

千葉市職員異動

中央区医監

太枝良夫(昭53)

(海浜病院院長)

海浜病院

寺井 勝(昭53)

院長(副院長)

青葉病院

岡野達弥(昭55)

副院長(診療局長)

第110回医師国家試験成績

試験日 平成28年2月6日(土)・7日(日)・8日(月)

合格発表 平成28年3月18日(土)

受験者 119名(新卒者 118名)

合格者 115名 合格率 96.6% (新卒者 114名 合格率 96.6%)

参考 国立 合格者 4,702名 合格率 91.7% 全国 合格者 8,630名 合格率 91.5%

るのはな かながわ

平成27年 第26号

るのはな・かながわ(平成27年8月31日)

るのはな かながわ



神奈川のはな会・千葉大学のはな同窓会神奈川地区支部

平成27年 26号

るのはな・かながわ(平成27年8月31日)

1

るのはな・かながわ 第26号 目次

巻頭言	ありがとうございました	森 豊	2
総会	平成26年度総会開催報告	三科孝夫	3
	平成25年度神奈川のはな会庶務報告		4
	平成25年度決算報告・平成26年度予算案		4
	総会風景		5
	集合写真		6
病院めぐり	独立行政法人国立病院機構 相模原病院	増田公男	8
地区だより	神奈川のはな会湘南地区・鎌倉支部	北野慎一郎	10
身辺雑記	るのはな神奈川、ひとむかし	広田和俊	12
	私の古い小さな手帖から	広田和俊	14
	横浜労災病院近況報告—自己紹介をかねて—	西川哲男	16
	アキレス腱断裂入院願末	井合瑞江	17
	おむすびが、どうしておいしいのだから、知っていますか	松本伸行	18
	卒後10年目を迎えて	三科 圭	20
表紙絵のこと			22
訃報			22
事務局より			22
編集後記			23

題字・加護正明/表紙絵・星 聡明

るのはな 静岡

平成28年1月 第24号

第24号

るのはな静岡

交際を促めて、「年を超え、いままでと違い務めがきびしくなりました。そこで、とうとう一年一回の総会と会報発行」を維持することになったもの、実情は本部助成、協賛金では立ち行かないのが実情です。一方、業大のはな同窓会の常任理事会である総会開催、同窓会の活性化、であることが分りました。これは直ちに、規模は小さくても



忍頂寺紀彰 (S. 42)
すずかけセントラル病院
経営管理センター

巻頭言

るのはな 静岡

発行
平成28年1月吉日
第24号

静岡のはな会会長、忍頂寺紀彰 忍頂寺紀彰

静岡のはな会は、東海4府県にまたがります。静岡は、東海4府県の中でも、天気が最もよく、四季がはっきりと分ります。静岡は、東海4府県の中でも、天気が最もよく、四季がはっきりと分ります。静岡は、東海4府県の中でも、天気が最もよく、四季がはっきりと分ります。

も浜松トニクスという私企業魂のヒト作りと通じています。浜松市長は、やらまいか精神に基づく創業が浜松の特性と地域住民を鼓舞します。最近のヒット商品としては、餃子を主力で作ったマグナムの軽電機、あるいはヨローパで評判がよいこと、マグナムの車いすは少々高価のようですが売れ行きはまだ未知数です。



のはな静岡 第24号

目次

巻頭言	静岡のはな会会長 忍頂寺 紀彰	1
平成27年度 総会報告		2
学術講演会	巽 浩一郎教授をお招きして 浜松医科大学 脳神経外科 難波 宏樹	4
	中年のたばこ病「COPD・慢性閉塞性肺疾患」 千葉大学大学院医学研究院 呼吸器内科学教授 巽 浩一郎先生	
理事会報告		8
沼津市立病院の歴史	沼津市立病院病院長 後藤 信昭	10
藤枝市の「ピロリ菌胃がんリスク判定」検診	志太医師会 理事 花岡 明宏	12
次男の急逝	尾崎 梓	16
泰西音楽遺孑10	瀧 廉太郎「憾」 月刊日本副編集長 尾崎 秀英	17
千葉大学医学部付属看護学校、看護学部卒業生の総会参加について	聖隷袋井市民病院院長 宮本 恒彦	18
私の学生時代	清水 武美	19
編集後記		20

隨 想

50 数 年 ぶ り の ホ ー ム ・ カ ミ ン グ (続)

新 堀 茂 (昭 38)

一 昨 年 の 沖 縄 で の 38 会 の 話 の 続 き 。 一 芸 に 秀 で る も の は 多 芸 に 通 ず 。 守 矢 和 人 君 は 医 学 部 で なく 囲 碁 学 部 に 通 学 し て い た と 言 う ぐ ら い で か な り の 高 段 者 。 私 は 日 本 棋 院 3 段 。 3 子 を 置 い た 。 そ の 結 果 は 1 勝 2 敗 、 そ れ で も 私 は 大 満 足 。 学 生 時 代 に は 雲 の 上 の 人 で 私 等 は 相 手 に し て も ら え な か っ た の だ か ら 。 翌 日 の 晩 も 守 矢 御 夫 妻 と 夕 食 を 共 に し た 。 話 題 は も つ ば ら 音 楽 。 庭 に 音 楽 室 を 建 て た と の 事 。 奥 様 は フ ル ー ト を 習 っ て い る そ う だ 。 守 矢 君 は 若い 頃 銀 座 の パ ー を は し っ こ して ピ ア ノ を 弾 き 歩 い て い た と 言 う 。

ある 晩 「 鈴 懸 の 径 」 を 弾 い て い た ら 突 然 ク ラ リ ン ेट の 音 が 聞 こ え て き た の で 誰 か と 思 っ た ら 「 あ の 鈴 木 章 治 そ の 人 」 で あ っ た そ う だ 。 い つ か 奥 さ ん の フ ル ー ト 、 私 の アル ト サ ッ ク ス そ し て 守 矢 君 の ピ ア ノ で ト リ オ を 組 ん だ ら 素 敵 だ な あ と 感 慨 に 耽 っ た も の だ 。 そ れ も ま た 夢 。 そ の 後 一 年 足 ら ず し て 他 界 さ れ た 。 ご 冥 福 を 。 学 生 時 代 の 話 を も う ひ と

つ 。 物 故 さ れ た 大 久 保 綜 也 君 は 、 本 当 に 良い 男 で (容 貌 も) 私 は 酒 に 酔 っ て は 彼 の 部 屋 へ 何 度 か 転 が り 込 ん だ も の だ 。 い つ だ っ た か 、 大 久 保 君 と 金 城 和 夫 君 と 二 人 で 笑 い け っ て い て 何 か と 思 っ た ら 、 二 人 と も 眉 毛 が 濃 く 油 断 す る と 両 眉 が 繋 が っ て し ま う の だ そ う だ 。 私 の 眉 は 左 右 に 飛 び 散 っ て い る の で 俄 か に は 信 じ ら れ な い が 、 彼 ら の 顔 を 見 る と 確 か に 両 眉 が 今 に も 握 手 寸 前 で あ っ た 。 金 城 君 は ソ シ ア ル ・ ダ ン ス の 名 手 と 聞 い た が 、 若 い 頃 は 仲 代 達 也 、 初 老 期 は シ ョ ー ン ・ コ ネ リ ー に 似 て い た が ど う し た 弾 み か 猿 に も 似 て い た 。 も う 20 年 以 上 あ っ て い な い 。 無 い 知 ら せ は 良い 知 ら せ と 言 う 。 だ か ら 元 気 な ん だ ろ う 。

と も あ れ 、 皆 元 気 で そ れ ぞ れ の 人 生 を 語 る 。 そ れ は 誰 も が 波 乱 万 丈 の 人 生 を 語 り た い も の だ か ら 。 そ れ は い い と し て も 自 分 の 病 歴 を 延 々 と 続 け る の に は 参 っ た 。 私 は そ ん な 話 を 聞 き た く て こ こ に 来 た の で は な い 。 折 し も 日 米 安 保 関 連 法 案 が マ

ス コ ミ の 執 拗 な 反 対 運 動 を 押 し 退 け て 漸 く 成 立 し た 。 私 達 は 60 年 安 保 世 代 、 青 春 の 真 っ 盛 り 、 そ の 懐 旧 談 を 語 り 合 い た か っ た 。 あ の 頃 は 、 連 日 ク ラ ス 討 議 で 大 騒 動 。 私 が 「 少 し 冷 静 に 話 し 合 っ た ら 」 と 発 言 し た ら 、 吊 り 上 げ を 食 っ た 。 思 い 直 し て デ モ を 見 る の も 面 白 い 経 験 に な る と 思 い 、 参 加 す る 事 に し た 。 警 視 庁 前 の 車 道 を フ ラ ン ス 式 デ モ と 称 し て 両 腕 を 伸 ば し 手 を 繋 ぎ あ い 、 そ し て ま た ス ク ラ ム を 組 ん で 練 り 歩 く 。 暮 れ な ず 互 国 会 議 事 堂 前 に は 、 そ こ こ に 屯 し た 学 生 たち が 夜 を 徹 し て 主 張 を 貫 徹 す る 為 に 参 集 す る 。 そ の 様 は ま る で 革 命 前 夜 だ 。 一 番 電 車 に 乗 っ て 家 路 に つ い た が 、 そ の 後 学 生 たち が 国 会 に 乱 入 、 樺 美 智 子 さ ん が 死 ん だ 。

宴 の あ と 、 大 学 病 院 や 研 究 棟 を 見 学 す る と 言 う 。 外 観 を 一 瞥 す れ ば 済 む こ と で 中 身 は 何 処 の 施 設 も 同 じ と 思 い 、 私 だ け 離 れ て セ ン チ メ ン タ ル ・ ジ ャ ー ニ ー を す る こ と に し た 。 私 は ド ク タ ー ・ コ ー ス を 東 京 女 子 医 大 、 心 臓 血 圧 研 究 所 に 入 局 し た の で 以 来 50 数 年 ぶ り の 帰 還 だ ー 。 何 と も 懐 か し い も の だ 。 わ が 母 校 は !! 旧 病 院 と 元 精 神 科 病 棟 と の 間 の 道 に 屹 立 す る 楠 木 の 幹 は 4 倍

位 生 育 し 、 そ の 枝 は 大 き く 翼 を 拡 げ 天 を 摩 す る ば かり 、 そ の 根 は 太 太 と 地 を 這 い ア ス フ ェ ル ト を 押 し 退 け る 。 昔 の 面 影 は こ こ ま で で 、 後 は 砂 を 噛 む よ う な 味 気 な い 景 色 が 眼 前 に 広 が る 。 真 新 しい 建 物 が 私 達 の キ ャ ン パ ス に 林 立 し て い る 。 ま あ 仕 方 な い 、 時 代 は 変 わ る の だ か ら 。 で も 、 ま あ 、 あ ち こ

平 成 27 年 度 第 2 回 常 任 理 事 会 議 事 要 旨 抜 粋

日 時 : 平 成 27 年 11 月 19 日 (水) 18 時 以 上

場 所 : 東 京 ス テ ー シ ョ ン コ ン フ ェ レ ン ス

出 席 者 : 濟 陽 高 穂 (会 長) 鈴 木 信 夫 (副 会 長) 吉 川 広 和 (副 会 長) 吉 原 俊 雄 (副 会 長) 秋 葉 哲 生 (会 計 監 事) 大 井 利 夫 (参 与) 青 木 謹 伊 藤 達 雄 岩 倉 弘 毅 岡 本 和 久 小 野 田 昌 一 三 枝 一 雄 崎 尾 秀 彰 宍 倉 正 胤 白 澤 浩 鈴 木 守 田 邊 政 裕 角 田 隆 文 中 田 義 隆 忍 頂 寺 紀 彰 花 輪 孝 雄 森 豊 高 橋 宏 和 (黒 木 春 郎 理 事 代 理) 山 本 修 一 附 属 病 院 長 (敬 称 略)

ち に 在 っ た テ ニ ス ・ コ ー ト が 、 み ん な 駐 車 場 に な っ て し ま っ た と な る と 、 脱 力 感 を 覚 え る 。 私 達 が 青 春 の 血 を 滾 ら せ 、 汗 と 涙 と 鼻 汁 を 流 し た 、 あ の テ ニ ス ・ コ ー ト が 消 え て し ま っ た 。 ま あ 、 そ れ も 良 し と す る 、 私 は 既 に タ イ ム ・ ト ラ ベ ル し て 、 過 去 の 空 間 に い た の だ か ら 。

濟 陽 高 穂 会 長 の 挨拶 の 後 、 同 会 長 が 座 長 と な り 議 事 が 進 め ら れ た 。

議 題

1. 報 告 事 項

(1) 予 算 執 行 状 況 (中 間 報 告) に つ い て

白 澤 浩 理 事 以 前 の 資 料 に 基 づ き 27 年 度 の 中 間 決 算 に つ い て 説 明 さ れ た 。 収 入 は 、 ほ ぼ 予 定 と お り で あ る こ と 、 支 出 で は ① 総 務 費 備 品 費 か ら 個 人 情 報 保 護 の た め イ ン タ ー ネット に 接 続 し な い パ ソ コ ン を 1 台 購 入 ② 事 業 費 国 際 交 流 支 援 費 ③ 同 窓 会 館 植 栽 工 事 費 用 に 支 出 ④ 予 備 費 か

ら 関 東 東 北 豪 雨 被 害 へ の 見 舞 い 金 等 を 支 出 。 以 上 の 事 が 報 告 さ れ た 承 認 さ れ た 。

(2) メ モ リ ア ル 建 造 物 (1 4 0 年 事 業) に つ い て

吉 川 廣 和 副 会 長 以 前 の 資 料 に 基 づ き 27 年 度 の 中 間 決 算 に つ い て 説 明 さ れ た 。 収 入 は 、 ほ ぼ 予 定 と お り で あ る こ と 、 支 出 で は ① 総 務 費 備 品 費 か ら 個 人 情 報 保 護 の た め イ ン タ ー ネット に 接 続 し な い パ ソ コ ン を 1 台 購 入 ② 事 業 費 国 際 交 流 支 援 費 ③ 同 窓 会 館 植 栽 工 事 費 用 に 支 出 ④ 予 備 費 か

ら 関 東 東 北 豪 雨 被 害 へ の 見 舞 い 金 等 を 支 出 。 以 上 の 事 が 報 告 さ れ た 承 認 さ れ た 。

(2) メ モ リ ア ル 建 造 物 (1 4 0 年 事 業) に つ い て

吉 川 廣 和 副 会 長 以 前 の 資 料 に 基 づ き 27 年 度 の 中 間 決 算 に つ い て 説 明 さ れ た 。 収 入 は 、 ほ ぼ 予 定 と お り で あ る こ と 、 支 出 で は ① 総 務 費 備 品 費 か ら 個 人 情 報 保 護 の た め イ ン タ ー ネット に 接 続 し な い パ ソ コ ン を 1 台 購 入 ② 事 業 費 国 際 交 流 支 援 費 ③ 同 窓 会 館 植 栽 工 事 費 用 に 支 出 ④ 予 備 費 か

ら 関 東 東 北 豪 雨 被 害 へ の 見 舞 い 金 等 を 支 出 。 以 上 の 事 が 報 告 さ れ た 承 認 さ れ た 。

(2) メ モ リ ア ル 建 造 物 (1 4 0 年 事 業) に つ い て

吉 川 廣 和 副 会 長 以 前 の 資 料 に 基 づ き 27 年 度 の 中 間 決 算 に つ い て 説 明 さ れ た 。 収 入 は 、 ほ ぼ 予 定 と お り で あ る こ と 、 支 出 で は ① 総 務 費 備 品 費 か ら 個 人 情 報 保 護 の た め イ ン タ ー ネット に 接 続 し な い パ ソ コ ン を 1 台 購 入 ② 事 業 費 国 際 交 流 支 援 費 ③ 同 窓 会 館 植 栽 工 事 費 用 に 支 出 ④ 予 備 費 か

ら 関 東 東 北 豪 雨 被 害 へ の 見 舞 い 金 等 を 支 出 。 以 上 の 事 が 報 告 さ れ た 承 認 さ れ た 。

(2) メ モ リ ア ル 建 造 物 (1 4 0 年 事 業) に つ い て

吉 川 廣 和 副 会 長 以 前 の 資 料 に 基 づ き 27 年 度 の 中 間 決 算 に つ い て 説 明 さ れ た 。 収 入 は 、 ほ ぼ 予 定 と お り で あ る こ と 、 支 出 で は ① 総 務 費 備 品 費 か ら 個 人 情 報 保 護 の た め イ ン タ ー ネット に 接 続 し な い パ ソ コ ン を 1 台 購 入 ② 事 業 費 国 際 交 流 支 援 費 ③ 同 窓 会 館 植 栽 工 事 費 用 に 支 出 ④ 予 備 費 か

ザインの純銀製メダルを制作し、表彰や記念品に使用できるようにとの提案があり、メダル作製について承認された。メダルに刻まれている年号や図についての説明文を添付することとした。

(5)その他
・黒木春郎理事からの提案について、代理出席の高橋宏和氏より説明された。常任理事会のように実際に開催される会議の重要性を十

平成27年度 第3回常任理事会議事要旨抜粋

日時：平成28年2月10日
(水) 18時より

場所：東京ステーション
コンファレンス

出席者：
・ 濟陽高穂(会長)
・ 鈴木信夫(副会長)
・ 吉川広和(副会長)
・ 吉原俊雄(副会長)
・ 秋葉哲生(会計監事)
・ 大井利夫(参与)
・ 税所宏光(参与)

青木 謹 伊藤達雄
岡本和久 織田成人
小野田昌一 加部恒雄
黒木春郎 三枝一雄
崎尾秀彰 白澤 浩
鈴木 守 田邊政裕
中田義隆 忍頂寺紀彰
幡野雅彦 花輪孝雄

分承知しているが、スピード感のある問題等については、メールやメーリングリストでの議論も検討していただきたいとの意見が示された。

・山本修一病院長から、現在の初期研修医、後期研修医等についての説明があった。同窓会員の附属病院受診支援についての案内や今後の人間ドックの予定等について話された。

山本修一附属病院長 (敬称略)

濟陽高穂会長の挨拶の後、濟陽会長が座長となって議事が進められた。

1. 報告事項

(1) 予算執行状況(中間報告)について
幡野雅彦理事より資料に

もとづき、平成27年度の間決算報告があった。収入について会費収入、事業収入とも例年どおりであること、支出についても総務費、事業費ともほぼ例年どおりに執行されていること、予備費から関東東北豪雨見舞い等に支出したこと、積立

金・東医体準備金より100万円を支出している等の報告があり、承認された。
(2) 広報編集関係
鈴木信夫副会長より次回

のものはな同窓会報の原稿締め切りは2月下旬であり、発行は5月であることが報告された。

2. 協議事項

(1) 平成28年度行事予定
白澤浩理事より資料に基づき、以下の行事予定が承認された。
常任理事会
平成28年4月14日(木)、
11月16日(水)
平成29年2月16日(木)
(水曜、木曜、交互の開

催)
平成28年6月11日(土) 会報発行
平成28年5月、9月、平成29年1月
同窓会賞決定
平成28年4月14日(木)
(2) 平成28年度総会について
秋葉哲生理事より、同窓

会総会は6月11日(6月第2土曜日)、千葉大学医学部附属病院3階ガーネットホールにて、懇親会は附属病院11階展望レストランにて開催。千葉県のはな会が担当。また、シンポジウム
の演題、演者等について説明があり、演者である山本

修一千葉大学附属病院長より総合診療、ER型総合診療等についてのシンポジウムであることが説明された。
懇親会の参加費について

検討をし、卒後15年までの会員については懇親会の参加費を無料とする案が承認された。
(3) 役員交代について
白澤理事より役員交代について①栃木のはな会より早乙女勇理事退任のため十川康弘氏(昭55)を推薦。
②神奈川のはな会より森豊理事退任のため三科孝夫氏(昭46)を推薦。③千葉

県のはな会には三枝一雄理事退任のため、理事候補の推薦を依頼。以上について説明があり承認された。
伊藤達雄理事より理事の若手登用について提案があり、

吉原俊雄理事より以前からの議題になっている現在の理事・評議員体制についての問題点についても検討をした意見があった。青木謹理

事から千葉県のはな会からの副会長選任を希望、地域でののはな同窓会の活性化も考慮してほしいとの意見があった。
今後は活性化委員会、活性化WGを中心に理事・評議員等同窓会の役員体制等について会則の変更を検討することが承認された。

(4) 同窓会賞選考委員について
白澤理事より資料により

のものはな同窓会賞選考委員の任期は2年、2期までであり、学内の2名の委員が任期満了のため選考委員候補として下条直樹氏(昭54)、滝口裕一氏(昭58)、磯野史朗氏(昭59)、また濟陽高穂氏は会長就任のため選考委員を辞任したことが説明され、承認された。
(5) 平成28年度予算編成

幡野理事より資料により平成28年度予算編成について説明があった。ほぼ例年と同じであるが、変更点について①学生の研究発表等を行う研究会「ちばBCRC」への支援。②学生生活動助成金より全日本医科学生オーケストラフェスティバルへの支援を予定。③同窓会サポートプロジェクト経費は、卒後50周年記念メダルを以前のサイズより大きなメダルに作成するため、金型代等の費用を計上し170万円に増額。④同窓会館設立事業は会館の建設が終わり、関連施設立準備金と名称を変更し、2期工事のための準備金として300万円を計上する。以上

が説明され承認された。附属病院長より、留学する学生への支援金の増額を今後

検討してほしいとの希望があった。吉原副会長より遠藤弘良氏(昭55)から留学に際しての貴重な情報を得られるとの参考意見があった。
(6) メモリアルウォール建設WG
吉川広和副会長より、メモリアルウォール建設WGについて説明があり、メンバーが承認された。このWGを中心に関連施設設立について検討していくことが承認された。
(7) ホームカミングデイについて
吉原副会長より、先日行われたホームカミングデイ開催について評議員に対して行ったアンケート集計の報告があった。開催に賛成が多く、開催日は11月の亥祭祭時の希望が多かった。吉原副会長を中心に本年度、ホームカミングデイを開催することが承認され、白澤理事が企画等を検討することになった。
(8) その他
・秋葉理事より千葉県のはな会の会費納入額の減少が続いているとの報告があり、同窓会費の徴収について検討してはどうかとの意見があった。
・山本病院長より医学部本館を医学部野球場のところ

に建替える計画がほぼ決定し、5年後の平成33年に完成予定であること、現在の医学部本館には耐震強度がなく耐震補強することが無理なための建替えであること、本館をすべて解体するのではなく本館正面の棟を残すような工事をするには約5億円の費用がかかること、その費用は公費で負担することができないため、資金については、のものはな同窓会員の協力を必要としていること等が説明された。その協力を得るためには、のものはな同窓会員に対して大学・医学部・附属病院から具体的な提案とともに協力を依頼するメッセージを伝えることが重要であるとの意見があった。

のものはな同窓会館
関連施設関係への寄附
水流 英雄 (昭32)
ありがとうございました。



オンライン会報案内

<http://www.inohana.jp/online/index.html>



本会は千葉大学医学部の発展に貢献するとともに、会員相互の親睦を図り、医道の昇進に努めることを目的としています。

オンライン会報は、動画での配信を主体とするインターネット上のサイトです。原則、スマートフォンなどにより、いつでもどこでも閲覧可能です（但し、iPhoneによる場合は、* Mac/スマホ対応*の番組が即時閲覧可能です）。例えば、トップページのオンライン書庫をご覧ください。書籍の紹介では、著者の生の声を聞くことやお姿を拝見しながら、書籍の内容を推察可能とさせております。またキャンパス便りや福祉関連情報における文化活動情報もご欄下さい。音楽を鑑賞できます。国際交流欄では、留学生の生の声や海外の医学情報・医学医療現場を垣間見ることが可能です。一方、動画ではありませんが、求職欄も新設しております。なお、協賛企業も募っております。では、全番組300以上あるものの中から、お好みの番組をご欄下さい。

Windowsで動画をご覧になる場合はInternet Explorerを推奨します。
Macintoshで動画をご覧になる場合はプラグインソフト「Flip4Mac」をインストールしてください。
>>ダウンロード >>インストール方法
ただし「* Mac/スマホ対応*」があるものは、プラグイン無しでご覧になれます。

オンライン会報 総合目次

- ・ 病院紹介
- ・ 求人・求職
- ・ 同窓会員経営の病院・医院・診療所の紹介
- ・ 生涯学習講座
- ・ インタビュー
- ・ 国際交流
- ・ 都道府県医師対策
- ・ オンライン書庫
- ・ 話題
- ・ 同窓会
- ・ クラス会・他大学等
- ・ キャンパス便り
- ・ 福祉関連情報
- ・ 「ほっとひといき」ちば通信（千葉日報）
- ・ 協賛企業からのお知らせ

■ オンライン書庫

【書籍】



NEW
運命の子 トリソミー
松永正訓
(松永クリニック小児科・小児外科
院長)

障害新生児の生命倫理との闘い

- ・ 障害新生児を守るものは何か? ▶ 映像を見る
- ・ 障害児の生活の一部に医療がある ▶ 映像を見る

[2016.3.22掲載]

* Mac/ スマホ対応*



その鎮静、ほんとうに必要ですか

さくさべ坂通り診療所

院長 大岩孝司

副院長 鈴木喜代子

- ・ 「序文」「目次」を読む
- ・ がん終末期を生き抜く人の尊厳は守る!! ▶ 映像を見る
- ・ 込み入った疼痛の理由を明かす
- 緩和ケアの柱は、全人的ケアにある — ▶ 映像を見る
- ・ 深い持続的な鎮静は安楽死
- 終末期がんの疼痛は避けることができる — ▶ 映像を見る
- ・ 疼痛とせん妄
- 終末期ケアに伴うふたつの課題 — ▶ 映像を見る

▶ WEBサイト

[2014.12.4掲載]

* Mac/ スマホ対応*

■ キャンパス便り



平成27年 クリスマスコンサート

千葉大学ののな音楽部

平成27年12月11日

於 千葉大学医学部附属病院外来
診療棟1階

- ・ 前編：クリスマス・フェスティバル他 ▶ 映像を見る
- ・ 後編：ジュラシック・パークメドレー他 ▶ 映像を見る

[2016.1.21掲載]

* Mac/ スマホ対応*

■ 福祉関連情報

文化活動情報



千葉より奏でるハーモニー

第61回 船橋市合唱祭

平成27年12月6日（日）

於 船橋市民文化ホール

- ・ 音楽祭1：船橋女声合唱団 ベラ・ヴォーチェ
習志野混声合唱団 ▶ 映像を見る
- ・ 音楽祭2：ハッピープリズム合唱団
HG メンネルコール ▶ 映像を見る
- こぶしの会 津田沼混声合唱団

[2015.12.25掲載]

* Mac/ スマホ対応*

■国際交流



国際交流に貢献する分子ウイルス学教室
承德医学院からの留学生との懇談
～承德医学院創立70周年を記念して～
[2015.12.24掲載]

* Mac/ スマホ対応*



短期交流 承德医学院研究生との懇談会
[2014.1.7掲載] * Mac/ スマホ対応*



スペイン医学史の旅
(2015年9月4日～11日)
[2015.12.24掲載]

* Mac/ スマホ対応*



マルタ・ローマ・ナポリ医学史巡り
2014 (2014年9月8日～15日)
千葉大学教育学部教授
杉田克生
[2014.12.26掲載]
* Mac/ スマホ対応*

ドイツ・チェコ近代医学史の旅 2013 (2013年6月7日～15日)



ロベルト・コッホの座像

[1] シャリテ・ベルリン医科大学

- ・附属病院 [▶ 映像を見る](#)
- ・ベルリン医学史博物館 [▶ 映像を見る](#)
- ・病理学研究所 [▶ 映像を見る](#)

[2] ライプツィヒ大学

- ・図書館 [▶ 映像を見る](#)
- ・医学部臨床教育シミュレーション実践 [▶ 映像を見る](#)

企画：千葉大学教育学部教授 杉田克生
[2013.11.27掲載] * Mac/ スマホ対応*

■求人・求職

[求職] (人材のご紹介です)

求職者

男性、47歳。大学、研究機関での研究・教育職を求職中。大学・大学院時代は遺伝学を専攻。その後、大学にて、教務職員、助教として長年、生化学分野の教育に従事。ストレス科学を起点に栄養学や環境科学に応用する研究・教育を展開している。

詳細は同窓会本部へお問い合わせ下さい。

キーワード

生化学、放射線、危機管理、ストレス科学、環境科学、エピゲノム、栄養学、食品科学、細胞生物学、遺伝学、宇宙科学健康促進活動、地域活性化活動、プロテオミクス

おしらせ

オンライン会報の取材編集に貢献して頂ける先生を募集しております。参画可能な先生は、取材や編集作業などについての詳細を同窓会本部迄お問い合わせください。

■協賛企業からのお知らせ



千葉大学医学部附属病院助成会参加企業
各企業のホームページをご覧ください。
[2011.11.6掲載]



耳より！「まるトク情報」
東京海上日動火災保険株式会社
[2012.10.26掲載]



さあ！おいしい舞台へ
すし銚子丸
株式会社 銚子丸
[2011.2.18掲載]

千葉医学雑誌 92巻1号 2016年2月

話 題

医学用語語源対話 V

杉田克生 池田黎太郎

千葉医学会奨励賞

マルチモダリティを用いた新しい非侵襲的循環器画像診断法の開発

小澤公哉

椎間板性腰痛の機序解明に関する取り組み

西織浩信

海外だより

ジュネーブ大学病院留学記

大島 拓

学 会

第1295回千葉医学会例会・第35回歯科口腔外科例会

第1307回千葉医学会例会・平成27年度第14回千葉大学

大学院医学研究院呼吸器病態外科学教室例会

OAP 要旨

健康不安患者の再保証を求める行動の動機と特徴:

日本人のサンプルにおける質的研究

沖田麻優子 小堀 修 沖田恭治 長谷川 直 白石哲也 伊豫雅臣

編集後記

生水真紀夫

CHIBA MEDICAL JOURNAL Open Access Paper

Original Paper

The motivations and characteristics of seeking reassurance in health anxiety:

A qualitative study of Japanese samples

Mayuko Okita, Osamu Kobori, Kyoji Okita, Tadashi Hasegawa

Tetsuya Shiraishi and Masaomi Iyo

千葉医学雑誌92巻2号 2016年4月

症 例

Upside down stomachを呈した巨大食道裂孔ヘルニアに対し腹腔鏡下修復術を

施行した1例

飯野高之 大城崇司 石多猛志 石井雅之 大石英人 新井田達雄

粘性性嚢胞腫瘍との鑑別が困難であった非機能性降神経内分泌腫瘍の1例

天海博之 神宮和彦 北林宏之 栃木 透 植松武史

話 題

「グローバルヘルス」への千葉大学の取り組み

一日独共同集中講義(ベルリン)・国際機関研修(ジュネーブ)に参加して一

庄司竜麻 中岡宏子 戸高恵美子 柏原 誠

志賀里美 川波亜希子 古賀千絵 森 千里

病院紹介

独立行政法人国立病院機構千葉医療センター

増田政久

学 会

第1317回千葉医学会例会・臓器制御外科学教室談話会

OAP 要旨

振動刺激は表在性の痛みを減弱する～実験的研究

鈴木崇根 國古一樹 松浦佑介 安部 玲 木内 均 上野啓介

赤坂朋代 金塚 彩 岩瀬真希 廣澤直也 高橋 仁 柿崎 潤

国司俊一 村上賢一 助川浩士 岩倉菜穂子 高橋和久

敗血症におけるプログラム細胞死一敵か味方か一

渡邊栄三 大網毅彦 砂原 聡 木村友則 高橋和香 幡野雅彦 織田成人

編集後記

野田公俊

CHIBA MEDICAL JOURNAL Open Access Paper

Original Paper

Vibratory stimulation reduces superficial somatic pain of the finger :

an experimental study

Takane Suzuki, Kazuki Kuniyoshi, Yusuke Matsuura, Rei Abe, Hitoshi Kiuchi

Keisuke Ueno, Tomoyo Akasaka, Aya Kanazuka, Maki Iwase, Naoya Hiroswawa

Jin Takahashi, Jun Kakizaki, Toshikazu Kunishi, Kenichi Murakami

Kouji Sukegawa, Nahoko Iwakura and Kazuhisa Takahashi

The Chiba Medical Society Award (2015)

Programmed cell death in sepsis

—Determining whether it is a friend or foe—

Eizo Watanabe, Takehiko Oami, Satoshi Sunahara, Tomonori Kimura

Waka Takahashi, Masahiko Hatano and Shigeto Oda

第93回千葉医学会総会開催のご案内

第92回千葉医学会学術大会

お ぐ や み

大曾根俊士(昭16^⑫)

深町 信一(佳木斯大・昭18)

遠山 富也(新潟大・昭19)

茂又 真祐(昭22)

有賀 光(昭23)

勝田 三郎(昭24)

月岡 道雄(昭24)

師尾 武(昭24)

横田 國臣(昭24)

河崎 明彦(専25)

永持 和一(横浜医専・昭25)

金沢 知礼(東北大・昭26)

河目 堯介(昭27)

土屋 和子(専27)

水流 英雄(昭32)

玉真 俊一(昭34)

小野 勇(昭35)

尾崎賢太郎(昭38)

齋藤 混(金沢大・昭40)

工藤 典雄(昭41)

石田 洋(日本歯大・昭41)

松壽 理(昭46)

村木 登(昭47)

片海 善吾(北里大・昭53)

編 集 後 記

桜の木にも緑が生え、新緑眩しい季節となりました。みのはな同窓会員の皆様におかれましては、おかげさまで、春は別れと出合いの季節であります。さて、春は別れと出合いの季節であります。お手元にお届けいたしましたのはな同窓会報第172号では、冒頭に、医学部卒業証書伝達式における済陽高穂同窓会長の祝辞が掲載されております。医師人生をはじめ卒業生への訓示として、米沢藩9代藩主上杉鷹山の「為せば成る、為さねば成らぬ何事も」が紹介されております。元より大学というところは人事異動が盛んで、まさに人生の交差点のごとくの有り様のとおり、昨年には多くの基礎系教授の方々がご就任され、そして今春、多くの臨床系教授の先生方が退任されていき

ました。本号では、新任教授就任挨拶として、薬理学安西尚彦先生、環境労働衛生学諏訪園靖先生、腫瘍病理学池原讓先生、長寿医学真鍋一郎先生、埼玉総合医療センタープレストケア科矢形寛先生のこれまでの業績と今後の抱負について熱く語られております。先生方のご活躍を期待しております。そして最終講義ご紹介として、整形外科科学高橋和久先生、形成外科学佐藤兼重先生の記事を掲載しております。長年の第一線での活躍ご苦労様でした。今後ともみのはな同窓会の後輩たちへのご指導よろしくお願ひ申し上げます。また昨年の秋の褒章を受けられた吉井功先生(旭日双光章)、石川広己先生(藍綬褒章)から受章のご挨拶が届きました。お二方とも千葉県医師会での地道な予防医学等における実

績を評価されての受章です。心からお祝い申し上げます。

後半の紙面では、各地のみはな会だより、クラス会だより、研修医だより、さらに学生の外活動だより、などいつもながらの同窓会の幅を感じさせる内容となっております。また高野光司先生(昭33年)と杉田克生先生(昭55年)からのご寄稿では、医学史に関連した豊富な知識に裏付けられた楽しい蘊蓄が披露されております。

これからも編集委員一同、充実した紙面の提供に邁進して参りたいと存じますので、会員の皆さまにはご支援賜りますようお願い申し上げます。

吉野 一郎(九州大・昭62)